北海道大学
文学部

2025

School of Humanities
and Human Sciences
Hokkaido University

2025年度 北海道大学 文学部

北海道大学
文学部

School of
Humanities and Human Sciences
Hokkaido University

www.let.hokudai.ac.jp

HOKKAIDO
UNIVERSITY

TOP MESSAGE

文学部長からのメッセージ

文学部への誘い

こんにちは、文学研究院の教員で川端と申します。2024年4月から2026年3月まで文学部長を務めます。私は1961年に札幌で生まれ、札幌で育ちました。1980年に北大に入学しましたので、もうずいぶん長くここにおります。クラーク博士の有名な言葉「Be ambitious!」は一般に「若者よ、大志を抱け」と訳されていますが、皆さんの先輩、後のアラビア石油の創始者である山下太郎は、このambitiousという言葉にはより「野心的」な意味合いが込められているとして、「若者よ、山師たれ」と説いています。

これまで北海道の地で、東西冷戦、高度成長、バブルとその崩壊、デフレと停滞、地政学リスク等をみてきましたが、大きくなりそうな時代のうねりの中で、現在の本研究院は全世界的にみても有望な山師的集団である、と私は思っています。ウェブサイトをみていただければわかりますが、多様で魅力のある文系や文理融合系コンテンツのほぼすべてが揃っています。これだと思う領域を選んで深くかつ学際的に学ぶことができる環境がありますし、野心的で親切な学部生約620名、修士課程学生約230名、博士課程学生約180名、文学院教員約130名と事務職員約20名が日夜仕事を全うしています。北大は札幌の中心に原生林や農地を含めて広大な敷地を占めており、さながら北海道全域の箱庭のようなイメージです。この箱庭での演習から始まって、北海道、北方圏、世界（real and cyber）をフィールドとして私たちは活動しています。

私の文学部と山スキー部の後輩で宗教学・仏教学を専攻した男がおります。建設機械の会社に入社した後に本格的にスペイン語を学んで南米赴任、あの広大な南米大陸で油圧ショベルの保守に奔走してきました。私が1997年にエクアドルのチンボラソ山に赴いた際にはチリから駆けつけてくれ、そのときの風貌はほぼ現地人のそれでした。現在、彼は日本でITを活用して、世界各地の工事現場で作動する機械の保守システムをコントロールしています。北大をホームベースに、様々な言語を交わしながら、飄々と世界の山を歩く、山師の一人と言えるでしょう。

北海道や日本は過去数十年間、経済、学生の就職に関しては受難の時代が続きましたが、その中でも時とともに私たちへの社会的要請は増えてきました。今後日本がより知的に経済的に豊かになる光がみえてきた中で、様々な業態の企業、団体、組織などが求める人材を供給する主要な源泉になりつつあります。私はそのような人材が北大文学部から輩出することを目標にしています。おもしろき人生の山師たれ!

北海道大学文学部長
川端 康弘　かわばた やすひろ

CONTENTS

文学部概要
書香の庭 …… 03-04
4コース・18研究室 …… 05-06
文学部の4年間 …… 07-08

各コース紹介

哲学・文化学コース
コース紹介／教員から／研究室紹介 …… 09-10
コースの授業例／先輩から …… 11
教員紹介／卒業論文テーマ …… 12

歴史学・人類学コース
コース紹介／教員から／研究室紹介 …… 13-14
コースの授業例／先輩から …… 15
教員紹介／卒業論文テーマ …… 16

言語・文学コース
コース紹介／教員から／研究室紹介 …… 17-18
コースの授業例／先輩から …… 19
教員紹介／卒業論文テーマ …… 20

人間科学コース
コース紹介／教員から／研究室紹介 …… 21-22
コースの授業例／先輩から …… 23
教員紹介／卒業論文テーマ …… 24

卒業論文 …… 25-26
留学制度 …… 27-28
資格・免許 …… 29-30
卒業後の進路・就職 …… 31-34
大学院進学 …… 35-36
研究者に学ぶ …… 37-40
入試関連情報 …… 41
学生サポート情報 …… 42
キャンパスマップ …… 43

書香の庭（しょこう）

SHOKOU no NIWA

文学部の教員が、新入生と一緒に読みたい本を紹介。多彩な教員が皆さんをお待ちしています。

佐野 勝彦 教授 推薦
働きたくないイタチと言葉がわかるロボット
人工知能から考える「人と言葉」
川添愛（著）
朝日出版社

田口 茂 教授 推薦
知恵の樹
—生きている世界はどのようにして生まれるのか
ウンベルト・マトゥラーナ、フランシスコ・バレーラ（著）
管啓次郎（訳）
筑摩書房

宮国 健吾 准教授 推薦
自然宗教をめぐる対話
ヒューム（著）
犬塚元（訳）
岩波書店

村松 正隆 教授 推薦
笑い
ベルクソン（著）
増田靖彦（訳）
光文社古典新訳文庫

林寺 正俊 教授 推薦
世界古典文学全集
仏典（I・II）
筑摩書房

宮嶋 俊一 教授 推薦
祈り
フリードリヒ・ハイラー（著）
宮嶋俊一（共訳）
国書刊行会

川口 暁弘 教授 推薦
王政復古
慶応三年十二月九日の政変
井上勲（著）
中央公論新社

権 錫永 教授 推薦
日本の禍機
朝河貫一（著）
講談社

谷本 晃久 教授 推薦
近世風俗志
—守貞謾稿（1～5）
喜田川守貞（著）
宇佐美英機（校訂）
岩波書店

橋本 雄 教授 推薦
贈与の歴史学
儀礼と経済のあいだ
桜井英治（著）
中央公論新社

吉開 将人 教授 推薦
わが半生
愛新覚羅溥儀（著）
小野忍（訳）

佐藤 健太郎 教授 推薦
省察すべき実例の書、アラブ人、ペルシャ人、ベルベル人および彼らと同時代の偉大な支配者たちの歴史に関する説き起こしとその結末の集成
イブン・ハルドゥーン（著）

村田 勝幸 教授 推薦
ブルシット・ジョブ
クソどうでもいい仕事の論理
デヴィッド・グレーバー（著）
酒井隆史他（訳）
岩波書店

山本 文彦 教授 推薦
ハーメルンの笛吹き男
伝説とその世界
阿部謹也（著）
ちくま文庫

國木田 大 准教授 推薦
縄文と世界遺産
人類史における普遍的価値を問う
根岸洋（著）
筑摩書房

小田 博志 教授 推薦
エスノグラフィー入門
小田博志（著）
春秋社

山口 未花子 教授 推薦
生きる智慧はフィールドで学んだ
現代人類学入門
山口未花子、ケイトリン・コーカー、小田博志（著）
ナカニシヤ出版

浅沼 敬子 教授 推薦
Circulating World
循環する世界
浅沼敬子（著）
ユミコチバアソシエイツ

今村 信隆 准教授 推薦
初版 古寺巡礼
和辻哲郎（著）
ちくま学芸文庫

瀬名波 栄潤 教授 推薦
セルロイド・クローゼット（DVD）
ロブ・エプスタイン&ジェフリー・フリードマン（監督）
ヴィト・ルッソ（原作）

竹内 康浩 教授 推薦
宮沢賢治
存在の祭りの中へ
見田宗介（著）
岩波書店

戸田 聡 教授 推薦
Biblia Graeca
(Septuaginta & Novum Testamentum Graece)
A. Rahlfs / R. Hanhart（編）
Deutsche Bibelgesellschaft

小椋 彩 准教授 推薦
人形
ボレスワフ・プルス（著）
関口時正（訳）
未知谷

宮下 弥生 助教 推薦
The Winter's Tale
William Shakespeare（著）

野本 東生 准教授 推薦
平安朝文章史
渡辺実（著）
東京大学出版会

近藤 浩之 教授 推薦
戦国縦横家書
大西克也・大櫛敦弘（著）
東方書店

田村 容子 教授 推薦
中国飛翔文学誌
空を飛びたかった 絢爛な人たちにまつわる十五の夜噺
武田雅哉（著）
人文書院

応 雄 教授 推薦
シネマ（1・2）
ジル・ドゥルーズ（訳）
法政大学出版局

押野 武志 教授 推薦
日本探偵小説を知る
押野武志他（編・著）
北海道大学出版会

水溜 真由美 教授 推薦
文化と帝国主義
エドワード・W・サイード（著）
みすず書房

加藤 重広 教授 推薦
新訳 ソシュール 一般言語学講義
フェルディナン・ド・ソシュール（著）
小林英夫（訳）／町田健（訳）
岩波書店／研究社

佐藤 知己 教授 推薦
フェルディナン・ド・ソシュール 一般言語学講義 抄
フェルディナン・ド・ソシュール（著）
大学書林

野村 益寛 教授 推薦
英語の感覚・日本語の感覚
池上嘉彦（著）
NHKブックス

藤田 健 教授 推薦
The Wind-up Bird Chronicle
Haruki Murakami（著）

菅井 健太 准教授 推薦
比較で読みとく スラヴ語のしくみ
三谷惠子（著）
白水社

蔦 清行 准教授 推薦
古語雑談
佐竹昭広（著）
岩波書店

河原 純一郎 教授 推薦
認知心理学者が教える最適の学習法
ヤナ ワインスタイン、メーガン スメラック、オリバー カヴィグリオリ（著）
山田 祐樹（監修）
岡崎 善弘、松本 康（翻訳）
東京書籍

小川 健二 准教授 推薦
脳のなかの幽霊
V・S・ラマチャンドラン（著）
サンドラ・ブレイクスリー（著）
山下篤子（訳）
KADOKAWA

大沼 進 教授 推薦
サイレント・アース
昆虫たちの「沈黙の春」
デイヴィ・グールソン（著）
藤原 多伽夫（訳）
NHK出版

結城 雅樹 教授 推薦
信頼の構造
こころと社会の進化ゲーム
山岸俊男（著）
東京大学出版会

瀧本 彩加 准教授 推薦
動物たちは何を考えている？
—動物心理学の挑戦—
藤田和生（著・編）
日本動物心理学会（監修）
技術評論社

竹澤 正哲 教授 推薦
協力する種
制度と心の共進化
サミュエル・ボウルズ（著）
ハーバート・ギンタス（著）
竹澤正哲・高橋伸幸他（訳）
NTT出版

中島 晃 助教 推薦
統計思考の世界
曼荼羅で読み解く データ解析の基礎
三中信宏（著）
技術評論社

櫻井 義秀 教授 推薦
しあわせの宗教学
ウェルビーイング研究の視座から
櫻井義秀（編）
法藏館

樋口 麻里 教授 推薦
精神障がいのある人を排除する社会でよいのか
国際比較調査からみる人間の価値
樋口 麻里（著）
ナカニシヤ出版

平澤 和司 教授 推薦
格差の社会学入門
学歴と階層から考える
平沢和司（著）
北海道大学出版会

平松 誠 講師 推薦
都市の村人たち
—イタリア系アメリカ人の階級文化と都市再開発
ハーバート J.ガンズ（著）
松本 康（翻訳）
ハーベスト社

清水 香基 助教 推薦
宗教意識の国際比較
質問紙調査のデータ分析
真鍋一史（著）
北海道大学出版会

橋本 雄一 教授 推薦
二訂版 QGISの基本と防災活用
橋本雄一（編）
古今書院

笹岡 正俊 教授 推薦
東南アジア地域研究入門
1 環境
山本信人（監修）
井上真（編）
慶應義塾出版会

宮内 泰介 教授 推薦
小さな民からの発想
顔のない豊かさを問う
村井吉敬（著）
時事通信社

髙橋 昂輝 准教授 推薦
トポフィリア
人間と環境
イーフー・トゥアン（著）
小野有吾・阿部一（訳）
筑摩書房

ラフェイ・ミシェル 教授 推薦
My Lantern
河井道（著）

教員の著書や美術作品を展示「書香の森」

文学部のエントランスにある「書香の森」では、教員の著書が展示されており、興味のある本はすぐ近くの文学部図書室で借りることができます。複数の研究室の学生が連携して研究成果を発表する企画展示や読書会も開催され、気軽な情報交換にも活用できるスペースです。

ウェブ版「書香の森」

書香の森に展示されている図書と文学部発行の雑誌、企画展示について紹介する場所です。
https://www.let.hokudai.ac.jp/book/

4コース・18研究室から成る

人文知のユニヴァース

体系的な学びで「生きる力」を涵養

文学部では、伝統的な学問分野を基礎としながら、教員たちの発展的な研究活動をもとに、高度な教育を行っています。

学部の専門課程に進んだ学生は、個々人の問題関心に応じ、様々な専門科目を学修することができます。もちろん、希望や意欲さえあれば、他の専門科目や学際的な科目も履修できます。

そうした学問的活動は、社会に出たときに必ずや役に立ちます。そしてその証として、高等教育の集大成というべき卒業論文の執筆が待っています。

哲学・文化学コース

Philosophy and Cultural Studies

哲学倫理学・宗教学インド哲学・芸術学・博物館学から構成されています。「知ること」「存在すること」を根源から問い直すとともに、「人間はいかに生きるべきか」を考究し、人間の精神的な営みの具体的な結果としての文化現象を探究します。

哲学倫理学研究室

宗教学インド哲学研究室

芸術学研究室

博物館学研究室

歴史学・人類学コース

History and Anthropology

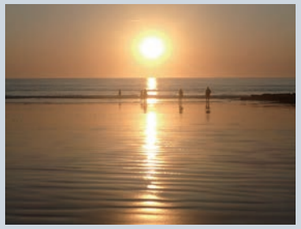
世界の諸地域諸民族の社会と文化を、歴史学・人類学・考古学の方法によって学ぶことを課題としています。日本・東洋・西洋各地域の古代史から現代史までの歴史学の学修と、人類の誕生から現在に至るまでの人類学および考古学の学修が中心となります。

日本史学研究室

東洋史学研究室

西洋史学研究室

考古学研究室


文化人類学研究室

学びの特徴

一人ひとりの探究心を細やかに応援しています。

- コースの定員はなく、希望通りのコースを選択できます。
- 授業選択の自由度が高い柔軟なカリキュラムです。
- コースの途中変更も可能です。
- 学びの集大成〈卒業論文〉執筆の達成感が味わえます。

言語・文学コース

Linguistics and Literature

「ことば」は人々のコミュニケーション手段であり、思考の道具でもあります。ことばの歴史と仕組みを時代・地域で対照しつつ考究し、ことばで表される思想・文学を言語・映像・情報で分析する方法を学びます。

欧米文学研究室

日本古典文化論研究室

中国文化論研究室

映像・現代文化論研究室

言語科学研究室

人間科学コース

Human Sciences

人間の行動や社会のしくみを、収集したデータの分析に基づき、実証的視点から理解することを目的としています。心理学・社会心理学・社会学・社会生態学・地理学などの科目があり、実験やフィールド調査の手法について体系的に学びます。

心理学研究室

行動科学研究室

社会学研究室

地域科学研究室

広大な緑のキャンパスで学ぶ

のびやかに成長できる文学部の4年間

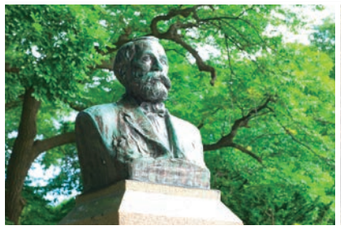
北海道大学文学部の履修の流れ

●1年次
1年生全員が総合教育部に所属
幅広い教養と外国語の基礎を習得

●2年次
文学部に進級、コースと研究室を選択
専門研究の入口に立つ

●3年次
取り組みたい研究テーマを絞り込み
希望者は2〜4年次に留学の機会も

●4年次
指導教員の細やかな指導のもと
学びの集大成〈卒業論文〉を執筆



北大ならではの魅力

恵まれた学びの環境

急な体調不良に備えて多目的休養室を設置

体調不良時の一時休養や、乳幼児の授乳・オムツ替えに利用できる多目的休養室が設置されています。

一大グリーンキャンパス「エルムの森」

北大はJR札幌駅まで徒歩圏内、地下鉄も好アクセスのロケーション。緑のキャンパスライフは生涯の思い出に。

奨学金や留学制度も充実多彩な支援で学生生活を応援

北海道大学はさまざまな場面で学生生活を多角的にサポート。みなさんのチャレンジを応援します。

質・量ともに国内屈指の図書館

北大の総蔵書数は約373万冊、雑誌約8万4千種、文学部図書室は蔵書約15万冊、雑誌約2千7百種を有します。リモートアクセスにより、電子ジャーナル等約8万5千種のデジタルコンテンツにもアクセスできます。

研究室で深まる信頼関係生涯の友と出会う研究室

一生モノの出会いが待つ研究室は心身ともに“居場所”となる空間。旅行や北大名物「ジンパ」など研究室独自の行事も充実!

キャンパスカレンダー

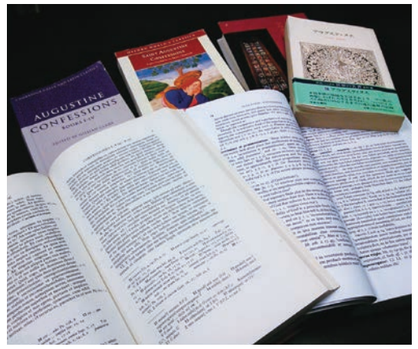
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
入学前					●オープンキャンパス					●大学入学共通テスト	●一般選抜前期日程	●前期日程合格発表 ●一般選抜後期日程・合格発表	入学前
1年次	●入学式 文学部は1〜4組に、文系総合は14〜15組に所属。 ●履修登録 指定された単位を修得するように選択登録。毎年4月と10月に行う。		●大学祭 クラス・サークルごとの模擬店やさまざまなイベントがもりだくさん。 			●第1回履修コース説明会 4コースの説明を聞いた上で、各研究室を実際に訪問。自分の関心と合うかどうかを検討し始める。					●第2回履修コース説明会 コースと研究室を絞り込む。	●文学部移行・コース確定 全員が希望コース・研究室へ。	1年次
2年次	●2年次進級式・ガイダンス 文学部での学生生活の始まり。学修に関する ガイダンスが開かれる。				夏休み（8月中旬〜9月末）	●合宿 研究室ごとに行うことがある。時期は研究室により異なる。			冬休み（12月下旬〜1月上旬）			春休み（2月中旬〜3月末）	2年次
3年次			●第1回 大学院 進学説明会			●合宿 研究室ごとに行うことがある。時期は研究室により異なる。		●就職ガイダンス 就職に関する情報を得るガイダンス。 ●第2回 大学院進学説明会					3年次
4年次	●卒論指導教員の決定		●教育実習 教員免許を取得する者のみ対象。時期は実習先により異なる。	●博物館実習 学芸員資格を取得する者のみ対象。時期は実習先により異なる。		●大学院入試（前期）	●卒論題目届を提出 指導教員と相談して卒業論文の題目を決定。論文作成もいよいよ追い込みへ。		●卒論提出	●卒論口述試験 試験の内容はコース・研究室で異なる。	●大学院入試（後期）	●卒業決定者発表 ●学位記授与式 学位「学士（文学）」を授与。 ●卒業祝賀会 文学部同窓会主催。	4年次

哲学・文化学コース

Philosophy and Cultural Studies

人間の精神と、その営みの本質に迫る。

哲学・文化学コースは、哲学、倫理学、宗教学、インド哲学・仏教学、
芸術学、博物館学といった専門分野から、思想と文化の根源に迫ります。
古代から現代までの人類の思索の跡をたどりながら、
「知ること」「存在すること」を根源から問い直すとともに、
人類の普遍的なテーマである「人間はいかに生きるべきか」を考究していきます。
さらに人間の精神的な営みによって創造された
具体的な結果としての文化現象を探究します。



哲学倫理学研究室

長い歴史をもつ哲学・倫理学の知を学ぶと共に、現代世界に差し迫った思想的諸問題について考えていきます。

宗教学インド哲学研究室

宗教学・宗教史学、死生学、仏教学、インド哲学などに関連する事柄について深く学ぶことができます。

芸術学研究室

ひとつの芸術作品に織り込まれている思想、歴史、他者との関係、個人の心情など多様な要素を読解することが芸術学の課題です。

博物館学研究室

ミュージアム（博物館・美術館・動植物園など）の歴史とあるべき姿を、コレクションとマネジメントの調査から探究して行きます。

教員から

「変革」を求める前に
—基礎固めとしての思想・文化探究

宗教学インド哲学研究室　眞鍋 智裕 准教授

現代は新しいもの、変革が必要とされ、もてはやされている時代です。それは思想・宗教・芸術分野においても例外ではありません。しかし、古来「温故知新」という言葉があるように、新しい思想的・文化的価値を生み出すには、同時代人を含めた先達たちの思想的・文化的営為を探究する必要があることでしょう。ところが変革を是とする現代社会においては、この探究に対する十分な時間が確保できません。そのようななか、大学時代はこの思想的・文化的営為の探究にじっくりとうちこめる唯一の時期です。皆さんも「変革」を求める前に、じっくりと基礎固めに取り組んでみませんか。

先輩から

自分の関心や悩みを言語化できるようになりました

哲学・文化学コース 4年生　佐藤 舞 さん

（2023年5月取材時に撮影）

普遍的な感情や認識の根拠に関する哲学書を読むのが好きで、哲学・文化学コースに進みました。学部生・大学院生・先生たちの研究室が全て同じフロアにあり、研究や進路の相談を気軽にできる環境です。授業にも他のコースや、ときには他学部の学生たちがいて刺激になります。皆との会話を通して、自分がぼんやりと抱いていた関心や悩みを言語化できるようになりました。分からないことを分からないと自覚し、それをきちんと人に言えるようになったことも大きな変化だと思います。

今取り組んでいる研究テーマは、17世紀のオランダの哲学者スピノザの思想です。彼の哲学は「神即自然」という言葉でシンプルに表現されることがありますが、本を紐解くうちに彼の思想の面白さと奥深さに気づき、ほんの一部だけなら理解することができるような気がしています。高校時代は倫理の教科書に書いていることが哲学なのだと思っていましたが、実際に学んでみるとかなり単純化して教えられていたことに気づきました。このコースで新しいことを知る楽しみを感じ、大学卒業後も何らかの形で哲学を学び続けていきたいです。

コースの授業例　古典から現代までの文献を講読して思想と文化についてとことん考え抜く一週間。

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1			博物館概論 博物館概論	博物館教育論 博物館教育論	
2	論理学 形式論理学の基礎	哲学 心理学の哲学	宗教学演習 宗教学基礎文献講読	倫理学概論 規範倫理学概説	芸術学概論 芸術論の歴史
3	芸術学演習 文化学研究の基礎	芸術学 聖堂・修道院と美術		ミュージアム・スタディーズ概論 ミュージアム・スタディーズの世界：コンテンツとマネジメント	インド古典語 サンスクリット語文法
4	宗教学 現代宗教論	ミュージアム・スタディーズ ミュージアムと地域コミュニティ	哲学演習 現象学入門演習	倫理学演習 近現代フランス哲学講読	
5			仏教学概論 仏教学入門		

※上の表は実際の開講時間割とは異なります。

▲ 心理学の研究成果の哲学的な含意を探る入門講義。［哲学］

▲ 古代インドの文献を読解できるようになるために、サンスクリット語の初等文法を学ぶ。［インド古典語］

▲ 画像資料も活用しながら、美術作品を宗教・歴史・社会的文脈から考察。［芸術学］

▲ この2単位を含め、所定の19単位を修得し卒業すると学芸員資格がとれる。［博物館教育論］

研究室・教員・卒業論文テーマ

哲学倫理学研究室

佐野 勝彦 教授　*SANO Katsuhiko*
■研究分野
論理学（特に非古典論理、哲学的論理学）

田口 茂 教授　*TAGUCHI Shigeru*
■研究分野
西洋近現代哲学（特に現象学）、意識の学際的研究、日本哲学

村松 正隆 教授　*MURAMATSU Masataka*
■研究分野
近現代フランス哲学、近現代倫理学

宮園 健吾 准教授　*MIYAZONO Kengo*
■研究分野
心の哲学、心理学の哲学、精神医学の哲学、美学、認識論、近世哲学

野村 恭史 助教　*NOMURA Yasushi*
■研究分野
現代分析哲学（特にウィトゲンシュタインの哲学）

【卒業論文テーマ例】
- 自己知と徳認識論
- 認識的不正義に抵抗する–対症療法の価値再考とトラウマ研究の応用–
- デフレ主義と公理的真理理論
- 『存在と時間』における非本来性の再検討–頽落の動的性格と〈ひと〉の支配–
- ピクトグラムの特殊性は現象学的観点からいかに説明できるか
- 中期フーコーの権力分析とその変容の検討
- ルソーの追い求めた幸福–社会と孤独
- ニーチェの自然主義的解釈とその意義〜「道徳の系譜学」より

宗教学インド哲学研究室

林寺 正俊 教授　*HAYASHIDERA Shoshun*
■研究分野
仏教学、仏教思想史

宮嶋 俊一 教授　*MIYAJIMA Shunichi*
■研究分野
宗教学、死生学

眞鍋 智裕 准教授　*MANABE Tomohiro*
■研究分野
インド哲学、インド哲学史

【卒業論文テーマ例】
- 日本の医療現場における遺族ケアの実践とその課題
- 初期仏教における十善と十不善の研究
- インド聖典解釈学における言語観
- 恐山・イタコ訪問者の記述の分析と考察
- ラーマーヌジャにおけるバクティと解脱の関係性
- 雪窓宗崔の排耶書におけるキリスト教批判

芸術学研究室

浅沼 敬子 教授　*ASANUMA Keiko*
■研究分野 現代美術史

谷古宇 尚 教授　*YAKOU Hisashi*
■研究分野 西洋美術史（イタリア美術史）

今村 信隆 准教授　*IMAMURA Nobutaka*
■研究分野 美学、美術批評史、博物館学

【卒業論文テーマ例】
- 日本刀の写しの役割についての再考–写しであるべき理由とはなにか–
- ルネ・マグリットの絵画としての「詩」の可能性
- 「横たわる人物像」から見るミケランジェロの図像の転用、自己引用と変化
- 戦前期美人画ポスターの展開
- 生月島かくれキリシタンの歌オラショにおける原聖歌との類似性
- ヴィネットイラストへの眼差し

博物館学研究室

久井 貴世 准教授　*HISAI Atsuyo*
■研究分野 動物に関する歴史と文化、博物館学、歴史鳥類学

卓 彦伶 講師　*CHO Yenling*
■研究分野 博物館学

【卒業論文テーマ例】
- 幼児の博物館利用における団体利用と個人利用間の学びの差異について–北海道博物館「世界の昆虫」展の事例から–
- 江戸時代の北海道におけるワシの分布および人との関わり
- 明治時代前半の北海道における馬肉食の社会的受容
- アイヌ展示における社会的ニーズと展示内容の関連性 –北海道博物館を対象としたニーズ評価の試行から–

歴史学・人類学コース

History and Anthropology

教員から

歴史の研究は史料から
——自らの手で問題を解き明かす喜び

日本史学研究室　橋本 雄 教授

「歴史が好き」という学生が、しばしば我々の研究室に進学してきます。ただし、そこで彼ら彼女らの念頭にあるのは、ほぼ例外なく高校までの「歴史」。要するに、誰かが作ったストーリーをなぞるものに過ぎません。一方、我々が大学でやっている「歴史」は「歴史学」。高校までの「歴史」とは違って、新たな仮説を創造する、熱い (!) 研究分野です。もちろん、手前勝手なやり方では説得力がありません。長い伝統のなかで培われた学問独特の作法があります。そのなかでも一等難しいのが、史料（資料）の扱い方。いわゆる史料批判ですね。その作法を習得するのが、大学での歴史研究といっても過言ではありません。新たな知見の獲得に成功したときの喜びを、一緒に味わってみませんか。

高知県立紙産業技術センターで古文書料紙復元の実験中

人類の歴史を学び、現代世界を理解する

歴史学・人類学コースは、世界のさまざまな地域における人類の歴史と文化を、歴史学・人類学・考古学の方法を通して学んでいきます。日本・東洋・西洋各地域の古代史から現代史までの歴史の学修と、人類の誕生から現在に至るまでの人類学および考古学の学修が中心となります。

日本史学研究室

古代・中世・近世・近現代のスタッフが揃い、研究テーマは自由に選ぶことができます。時代別の自主ゼミも活発です。

東洋史学研究室

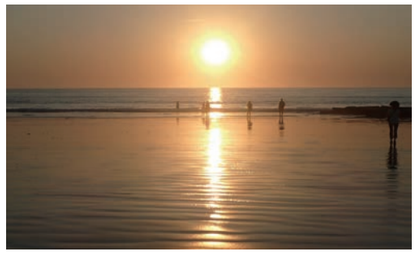
中国（漢字文化圏）と中東イスラーム地域（アラビア語・ペルシア語・トルコ語文化圏）の歴史を研究しています。

西洋史学研究室

ヨーロッパおよびアメリカの歴史から時代や地域を自由に選択し、また多角的な手法を用いて研究をすることができます。

考古学研究室

考古学はモノ（遺物や遺跡など）の研究によって、文字に記録されなかった歴史を再構成する学問です。



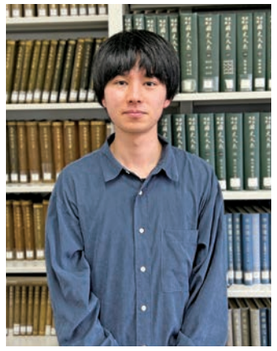
文化人類学研究室

この地球の上で人類は多様な文化を形作ってきました。文化人類学では文化多様性を研究者が現場に身をおきながら明らかにします。

先輩から

史料に描かれていない「謎」に魅かれて歴史学へ

歴史学・人類学コース 4年生　亀井 鼓太郎 さん



（2023年5月取材時に撮影）

歴史学を専攻するきっかけは、「謎」です。日本史学では主に史料と呼ばれる文献に依拠して過去の状況を推察します。しかし、史料に書かれていることは長い歴史の中のごく一部でしかありません。そうすると、描かれていない部分は自然と「謎」となるわけです。その未知の部分に魅かれて歴史学・人類学コースを選択しました。

日本史学は当然、日本で起こったことを研究します。そして、その大部分は日本人が主役です。時が経っているとはいえ、古くからこの地で生活をし、文化を育んできた人々のことですから、どこか感覚的に繋がったものがあると思います。そうして、「自分だったらどうだろう」と歴史の中に自分自身を投影して想像を膨らますことができる点が、日本史学の魅力のひとつです。僕自身の関心は今、日本史学の中でも中世の天文事情に向いています。近年は新しい技術の発展が目覚ましいですが、それらを支えているのは人類の長い歴史です。前ばかりを見つめるのではなく、たどってきた道のりを振り返り、見つめ直すのも楽しいと思います。その歴史の深さ、面白さをぜひ一緒に味わいましょう。

コースの授業例　世界各地、各時代を構成する人々の営みを史資料を通して追究する。

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1					
2	日本史学演習 近代日本の歴史と文化	日本史学概論 日本史学研究法	日本史学 明治憲法と国家運営	東洋史学 オスマン朝と近世世界	日本史学 室町・戦国期の日本とアジア
3	東洋史学演習 中東イスラーム史の諸問題	西洋史学演習 アメリカ史研究のパースペクティヴ	考古学概論 理論と方法	西洋史学概論 西洋史入門	東洋史学 宋代の政治と社会
4	西洋史学演習 フランス近代史	考古学 文化財の保存と活用	文化人類学演習 エスノグラフィー入門	西洋史学 中近世ヨーロッパ史	考古学演習 考古学の基礎技術（石器研究法）
5				文化人類学 人類学の展開	

※上の表は実際の開講時間割とは異なります。

▲ 考古資料等の文化財について、保存と活用の基礎や今日的課題を学ぶ。［考古学］

▲ 近世の地中海を舞台に、オスマン朝をより広い歴史の文脈の中に位置づけていく。［東洋史学］

▲ 室町時代に用いられた、現存しない日明勘合。その復元も、日本史研究の重要な一端だ。［日本史学］

▲ 中世後期・近世前半のヨーロッパ史を、多様な史料を用いて多角的に考察する。［西洋史学］

研究室・教員・卒業論文テーマ

日本史学研究室

川口 暁弘 教授 *KAWAGUCHI Akihiro*
■研究分野 日本近代史、明治憲法史

権 錫永 教授 *KWEON Seok-Yeong*
■研究分野 日本近代思想史、植民地期朝鮮文化史

谷本 晃久 教授 *TANIMOTO Akihisa*
■研究分野 日本近世史、北海道地域史

橋本 雄 教授 *HASHIMOTO Yu*
■研究分野 日本中世史、東アジア海域史

吉田 拓矢 講師 *YOSHIDA Takuya*
■研究分野 日本古代史、天文暦算史

【卒業論文テーマ例】
- 足利義政期における興福寺の対幕府交渉の再検討
- 井原西鶴『男色大鑑』における男色観の検討と考察
- 19世紀末日本における「君が代」と「国歌」の性格
- 謀略機関としての秋丸機関の検討
- 軍事救護制度における傷痍軍人対策
- 「蝦夷地一件」と幕府の蝦夷地政策
- 樺太における緊急疎開の制度的研究
- 越後守護代長尾氏の権力形成過程
- 古代の天皇喪葬と葬司
- 伊勢・賀茂斎王制度の崩壊

東洋史学研究室

佐藤 健太郎 教授 *SATO Kentaro*
■研究分野
中東イスラーム史（特に西地中海地域）

吉開 将人 教授 *YOSHIKAI Masato*
■研究分野
中国近現代史、南中国、民族問題、学術史

梅村 尚樹 准教授 *UMEMURA Naoki*
■研究分野
宋代社会史、思想史

末森 晴賀 講師 *SUEMORI Haruka*
■研究分野
オスマン朝・トルコを中心とする西アジア史

【卒業論文テーマ例】
- 戊戌政変の契機についての再検討
- 16世紀マラケシュのモリスコとサアド朝王権
- 中世アラブ世界の鷹書ークシャージムの『罠と狩りの書』を中心にー
- 古代エジプト古王国後半から第一中間期における時代の転換について
- 8世紀の東ウイグル帝国によるマニ教導入についての研究
- 秦始皇帝の巡行についての再検討

西洋史学研究室

長谷川 貴彦 教授 *HASEGAWA Takahiko*
■研究分野 近現代イギリス史、歴史理論

松嶌 明男 教授 *MATSUSHIMA Akio*
■研究分野 近現代フランス史

村田 勝幸 教授 *MURATA Katsuyuki*
■研究分野 アメリカ史、アメリカ研究

山本 文彦 教授 *YAMAMOTO Fumihiko*
■研究分野 ドイツ中世・近世史

安酸 香織 准教授 *YASUKATA Kaori*
■研究分野 近世ヨーロッパ史、アルザス地域史

【卒業論文テーマ例】
- 中世盛期のポーランドにおける居酒屋と都市成立の関係
- 15世紀におけるハンザ同盟の変容
- 17世紀から19世紀のフランスにおける「アパランス」について
- 冷戦期アメリカの「理想の家族」に見るジェンダー的反動
- 現代ヒップホップにおけるLil Nas Xの挑戦
- ヒストリー・ワークショップ運動と1970年代イギリス社会
- 紀元前ヒスパニアにおける「ローマ化」と先住民反乱ーセルトリウス戦争を手がかりにー
- ロナルド・サイム「ローマ革命」論の批判的考察 ー前1世紀におけるイタリア地方都市有力者層の実像からー
- ウィンドバンドの誕生と発展 ～フランス革命期を中心に～
- イーノック・パウエルの〈人種主義〉ー「血の河演説」(1968年)の批判的考察ー

考古学研究室

江田 真毅 教授 *EDA Masaki*
■研究分野 動物考古学、考古鳥類学、文化財科学

高瀬 克範 教授 *TAKASE Katsunori*
■研究分野 考古学、植物考古学

國木田 大 准教授 *KUNIKITA Dai*
■研究分野 考古学、文化財科学

髙倉 純 助教 *TAKAKURA Jun*
■研究分野 考古学、文化財科学

中澤 祐一 助教 *NAKAZAWA Yuichi*
■研究分野 考古学、人類進化史

【卒業論文テーマ例】
- 九州地方における縄文時代のイチイガシ種実利用の研究
- 北海道太平洋岸における本土決戦陣地の考古学的研究
- 北海道湧別市川遺跡出土石器の使用痕分析
- K39遺跡の北大式土器についてー工学部共用実験研究棟地点出土資料の再検討を中心にー

文化人類学研究室

小田 博志 教授 *ODA Hiroshi*
■研究分野 人類学、自発性研究、平和研究、生命論、エスノグラフィー論

山口 未花子 教授 *YAMAGUCHI Mikako*
■研究分野 人類学、自然誌、動物論、狩猟研究、北米先住民研究

コーカー ケイトリン クリスティーン 准教授 *COKER Caitlin Christine*
■研究分野 人類学、身体化論、パフォーマンス研究、情動論

田中 佑実 助教 *TANAKA Yumi*
■研究分野 人類学、樹木と人、芸術、北欧先住民研究

【卒業論文テーマ例】
- 月経のエスノグラフィー ー人々はなぜためらうのかー
- 露店商が彩る祝祭空間ー北海道における「テキヤ」の実践ー
- デンマークの光の経験
- 「のき」がひらくもうひとつの共同性 ー上田市の市民活動にみる相互扶助とアナーキズムー
- プライドパレードをつくる人のエスノグラフィー ーさっぽろレインボープライド実行委員会を事例にー
- 国策の下で「対話する」ということ ー高レベル放射性廃棄物の最終処分場建設に関わる地域の営みからー

言語・文学コース

Linguistics and Literature

ことばを通して人間を理解する

「ことば」は人々のコミュニケーション手段であり、思考の道具でもあります。言語・文学コースでは、ことばの歴史と仕組みを時代（古典から現代まで）・地域（日本・中国・西洋）で対照しつつ考究し、ことばで表される思想・文学を各種メディア（言語・映像・情報）で分析する授業が展開されます。

欧米文学研究室

英語圏文学・フランス文学・ロシア及びスラブ文学・西洋古典文学を読みながら、語学だけでなく広く文化表象を読み解くリテラシーを高めます。

日本古典文化論研究室

上代・中古・中世・近世の文学および文化を対象とし、多様な視点からの理解をめざします。

中国文化論研究室

中国の思想、言語、文学などをはじめ、中国および漢字文化圏に関する幅広いテーマを学習・研究することができます。

映像・現代文化論研究室

日本の近代・現代の文学全般、日本および世界の映画を中心として、広く現代の映像・表象・思想を理論的・具体的に追究します。

言語科学研究室

言語の科学としての言語学の方法論で、日本語、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、韓国朝鮮語、アイヌ語などを深く学びます。

教員から

ことばが繋ぐ昔と今、他と我
—北大文学部「親不孝」の授業—

日本古典文化論研究室　南 陽子 准教授

言語・文学コースは、一つの文化現象に対して多面的かつ専門的なアプローチができる場所です。私の演習授業では、欧米文学、日本古典文化論、中国文化論、映像・現代文化論、言語科学の各研究室の学生たちが自分の得意な方法で、井原西鶴『本朝二十不孝』に描かれた20人の「親不孝者」の話を読んでいます。「孝」の歴史的変遷を整理する人、リズミカルな文章を音声学から解析する人、今の自分の問題に引き寄せて「親不孝」を考える人。同一テキストから複数の論点が見出される驚きに触れつつ、「自分の考えたいこと」を存分に掘り下げられる貴重な数年間を充実したときにして欲しいと思います。

日本文学演習、『本朝二十不孝』授業風景

先輩から

「表現」を学び、現代社会を生きる手がかりに

言語・文学コース 4年生　山田 美博 さん

幼い頃から本、映像、音楽…と「表現」全般に興味を持っていました。あるべき姿が常に求められる社会にどこか窮屈さを感じながら生きていた私にとって、ありのままに自分を表現した作品に触れることは、自身を解放し、自由にしてくれる翼のようでした。言語・文学コースに進学し、例えばずっと好きだった王家衛（ウォン・カーウァイ）監督作品で描かれる空虚な切なさを帯びた恋などこれまで何となく美しいと感じていたものに、一つ一つ意味を見いだせるようになったことが、一番楽しいと感じるところです。

今は、女性に対する社会のまなざしがどのように形成されてきたかを、近現代の文学・映像作品を中心にジェンダー論・フェミニズムの観点から読み解いています。言語や文学を学ぶことは、かつての人々がどのような文化・社会・思想の中に生きたのかを知り、現代の私達がどう生きていくべきかを考える大きな手がかりとなります。これからあなたが学ぶことは、必ずあなたの人生の指標になってくれるはず。私も学んだことを社会の中で実践し、還元する。誰も傷つけずに、いいものを創る。将来どんな仕事に就いても、ここは譲らずに貫きたいです。

（2023年5月取材時に撮影）

コースの授業例　ことばの歴史と仕組みに向き合いながら探究したい文学研究を盛り込むことも可能。

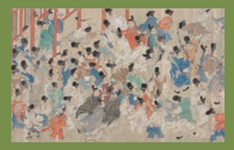
	MON	TUE	WED	THU	FRI
1				西洋文学演習 ロシア文学講読	
2	中国思想史概説 中国思想史の多角的研究	国語学概論 日本語の時代的変遷	言語学概論 言語学の基礎	西洋文学 古代ラテン語文法	日本文学 『古今著聞集』を読む
3	国語学 社会言語学入門	西洋言語学演習 ロマンス語学研究の発展	日本文学演習 『源氏物語』若紫巻を読む	映像表象文化論演習 現代映像文化論	英米文学 英米の短編小説
4	日本文学史概説 近世文学と古典	西洋文学概論 モニュメントとフランス文学	中国語学概論 中国文学探検行	日本思想 1930年代の思想と文学	
5			英語学概論 英語の構造と意味		

※上の表は実際の開講時間割とは異なります。

▲ 緊張感あふれる演習でフランス語の読解力が向上。［西洋言語学演習］

▲ ギリシア語・ラテン語を習得すると、何を学ぶにも深みが増す。［西洋文学］

▲ 現代の映像文化や映像をめぐる環境について、文献講読・作品分析を通じて考察する。［映像表象文化論演習］



▲ 日本中世の文学的・文化的な営為や表現方法を、説話文学『古今著聞集』を読むことを通じて理解する。［日本文学］（画像：国文学研究資料館所蔵）

研究室・教員・卒業論文テーマ

欧米文学研究室

瀬名波 栄潤 教授 *SENAHA Eijun*
■研究分野 英米文学、英語圏文学、ジェンダー・セクシュアリティ研究

竹内 修一 教授 *TAKEUCHI Shuichi*
■研究分野 フランス現代文学

竹内 康浩 教授 *TAKEUCHI Yasuhiro*
■研究分野 アメリカ文学

戸田 聡 教授 *TODA Satoshi*
■研究分野
古典文献学（特に古代ギリシア語文献学）、古代キリスト教史

小椋 彩 准教授 *OGURA Hikaru*
■研究分野
ロシア文学、ポーランド文学、比較文学

宮下 弥生 助教 *MIYASHITA Yayoi*
■研究分野
Shakespeare劇、物語理論、中世英語英文学

【卒業論文テーマ例】
- To Die while Alive: The Possibility of Salvation in Edgar Allan Poe's *"The Premature Burial"*（生きながら死ぬこと－エドガー・アラン・ポー「早まった埋葬」における救いの可能性）
- To Live Next to Death: Fragments of the War in J.D. Salinger's *The Catcher in the Rye*（死の隣で生きる－J.D.サリンジャーの『ライ麦畑でつかまえて』に見る戦争の断片）
- A Sense of Belonging: Family Bonds in Three Peter Pan Stories（心のよりどころ ～ピーター・パン三部作における家族の絆～）
- 虚構としての戦争とその語り－ロシアの戦争短編小説から考える－
- タチヤーナ・トルスタヤ論
- アルベール・カミュ『異邦人』と『幸福な死』の主人公比較
- Colorful Capote: Race and Sexuality in His Early Stories（生を彩る－トルーマン・カポーティ初期作品から見る人種とセクシュアリティ－）
- Illusive Hope: Symbolism of Mutability in the World of Kazuo Ishiguro（希望という幻影：カズオ・イシグロの世界における無常の象徴表現）
- フラナリー・オコナー作品におけるアメリカ南部人のアイデンティティ
- Ghosts and Sounds in Carson McCuller's *The Member of the Wedding*（カーソン・マッカラーズ「結婚式のメンバー」における幽霊と音）

日本古典文化論研究室

野本 東生 准教授 *NOMOTO Tosei*
■研究分野 中世説話文学

南 陽子 准教授 *MINAMI Yoko*
■研究分野 近世文学

小林 理正 講師 *KOBAYASHI Tadamasa*
■研究分野 中古文学

【卒業論文テーマ例】
- 上代文学における蛇譚
- 前期大斎院サロンの形成
- 「源太騒動」と綾足・秋成－「ますらを」性に対する考察を中心にして－
- 蘇生譚考

中国文化論研究室

近藤 浩之 教授 *KONDO Hiroyuki*
■研究分野 中国古代思想、易学思想史

田村 容子 教授 *TAMURA Yoko*
■研究分野 中国演劇、中国文学

熊 征 講師 *XIONG Zheng*
■研究分野 中国古典文学、中国哲学

【卒業論文テーマ例】
- 『点石斎画報』に見る清朝末期中国の死生観について
- 『論語と算盤』における『論語』解釈－原義と現代的意義
- パンダを考える
- 革命現代京劇『海港』論
- 『元秘抄』にみる菅原氏の生存戦略
- 『金瓶梅詞話』における女性と飲酒

映像・現代文化論研究室

応 雄 教授 *YING Xiong*
■研究分野 映像表象論

押野 武志 教授 *OSHINO Takeshi*
■研究分野 日本近代文学、表象文化論

水溜 真由美 教授 *MIZUTAMARI Mayumi*
■研究分野 近現代日本思想史、ジェンダー研究

川崎 公平 准教授 *KAWASAKI Kohei*
■研究分野 映像論、日本映画研究

【卒業論文テーマ例】
- ジム・ジャームッシュ映画研究
- 綾辻行人研究
- 創作における新選組表象の研究－アニメ、漫画、ゲームを中心に－
- Reimagining Shonen Manga: Tatsuki Fujimoto's Innovative Use of Narrative and Aesthetics in *Chainsaw Man*（藤本タツキ『チェーンソーマン』論）
- マイケル・マン映画研究
- 三浦綾子作品における家族像

言語科学研究室

李 連珠 教授 *LEE Yeonju*
■研究分野
言語学、韓国語学、音韻論

加藤 重広 教授 *KATO Shigehiro*
■研究分野
言語学、日本語学、語用論

佐藤 知己 教授 *SATO Tomomi*
■研究分野
言語学、アイヌ語、北方言語

野村 益寛 教授 *NOMURA Masuhiro*
■研究分野
英語学、認知言語学、意味論

藤田 健 教授 *FUJITA Takeshi*
■研究分野
フランス語学、ロマンス語学、統語論

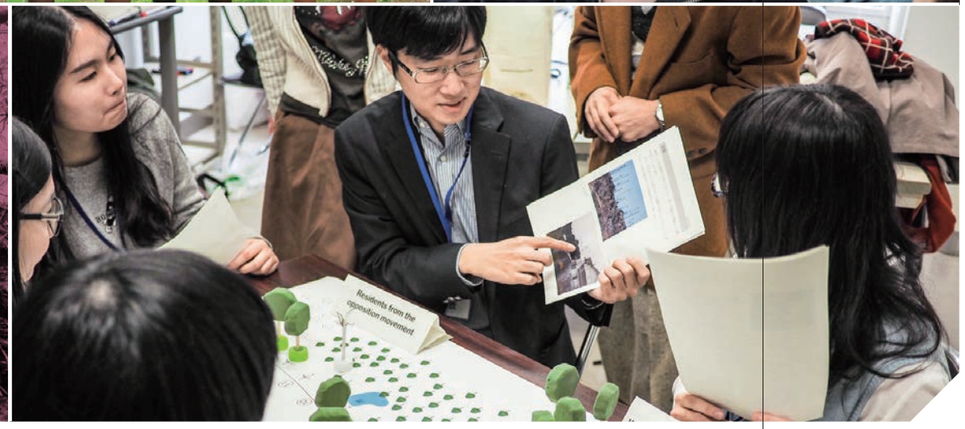
菅井 健太 准教授 *SUGAI Kenta*
■研究分野
ロシア語学、スラブ語学

蔦 清行 准教授 *TSUTA Kiyoyuki*
■研究分野
国語学、文献学、歴史言語学

【卒業論文テーマ例】
- 男女を形容する言葉についての考察
- 慣用表現に見る「手」概念の日露対照分析
- 略語についての日韓対照研究
- 語構成から見た上代日本語形容詞の意味と活用
- 大津方言外来語アクセント
- 北海道方言サル助動詞に関する総合的研究
- ブルガリア語のいわゆる動名詞－ниеについて
- カナダフランス語の語彙および表現の特徴について
- 日本語の外来的造語要素に関する一考察 －「フル」を中心に－
- 日本の人名に関する言語学的一考察 －特に特殊な読みを持つ漢字の問題を中心として－
- 平安時代に於ける「ハ」の主題提示用法の文体間に見られる差異 －正格漢文・変体漢文・和文の比較から－
- A Linguistic Analysis of American Net Slang（英語ネットスラングの言語学的分析）
- Conditions on English Compound Adjectives with Adjective and Past Participle －With Special Reference to Resultative Constructions－（英語の形容詞-過去分詞型複合形容詞が成立する条件 －結果構文との関連に着目して－）
- イタリア語の前置詞句における補語人称代名詞の抜き出しについて

人間科学コース

Human Sciences



教員から

実証的な手法に基づいた深い人間理解と社会認識を

地域科学研究室　宮内 泰介 教授

私たち自身、そして私たちをとりまく社会、さらには人間以外の環境、そうしたものの「しくみ」を学ぶのが人間科学コースです。このコースでは、社会心理学、心理学、認知科学、社会学、地理学、社会生態学など、人と社会の関係に関する実証的な研究の最先端を学べます。実験、調査、フィールドワークなど多様な調査手法のもとで、人間の心理や行動について、人間の心理と社会の関係について、さらには、社会と環境との関係について、広く深く学ぶことができます。実証的な手法に基づいた深い人間理解と社会認識は、現実社会のさまざまな問題の解決にも役立つものです。一緒に学んでみませんか。

人間の行動や社会のしくみを解き明かす

人間の行動や社会のしくみを、収集したデータの分析に基づき、
実証的視点から理解することを目的としています。
心理学、社会心理学、社会学、社会生態学、地理学などに
関連する多彩な科目が用意されているほか、
実験、調査、研究方法などは必修となっており、
社会と心の実態に迫るための手法を身につけます。

心理学研究室

実験・調査によって収集したデータの分析に基づいて、人間の行動や、それを司る脳機能の仕組みを実証的視点から学びます。

行動科学研究室

社会心理学・進化心理学・文化心理学・行動経済学・神経科学・比較認知科学などを通じて、人や動物の心と社会との関わりを学びます。

社会学研究室

社会の仕組みとその変化を、個人との関係から読み解いていくのが社会学で、その方法（聞き取りや大規模調査など）も学びます。

地域科学研究室

地域社会学・人文地理学・社会生態学の三分野をベースに、フィールドワークを中心として、地域の多様な問題へのアプローチを学びます。

先輩から

他者と分かり合おうとすることを諦めない

人間科学コース3年生　石田 きなり さん

（2024年5月取材時に撮影）

私は、震災の「復興」やまちづくり、人々の居場所づくりなどに関心があり、地域科学研究室がある人間科学コースを選びました。水俣病事件について学んだとき、最初はなぜ住民が有毒かもしれない魚を食べ続けていたのか、なぜ認定のための苦しい闘いを続けるのか、分かりませんでしたが、当時の社会構造や差別、彼らの生活・人生を調査することで、少しですが彼らの論理を想像することができるようになりました。現在は環境社会学を専攻し、戦争や公害、災害などの非体験者が「災禍」の記憶や経験をどのように継承していけばよいのかを研究しています。一見災禍とは無関係に思える生活史エピソードも根気強く聞いていくと、災禍をより多層的に解釈する手助けになります。単一の答えがない分、苦しいこともありますが、こうした人間科学コースの学びは他者との共存を考え、自分のことも理解するための大切なヒントになっています。

今後は大学院に進学し研究を続ける予定です。将来どのような職業に就いても、文学部で学んだ“わかりやすいものに安住せずに考え続け、他者と分かり合おうとすることを諦めない姿勢”を持ち続けたいと思っています。

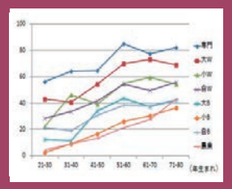
コースの授業例　実験や調査、データ解析を通じて課題を解明。文献読解やプレゼンでコミュニケーション力もUP。

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1					
2	行動科学実験実習 行動科学のための基礎実験 「心理学実験実習」・「社会調査法実習」・「野外調査法実習」のように、各専門分野で実習がある。（必ずしも4コマ続きとは限らない）	心理学概論 心理学の基礎知識	心理学研究法 実験デザイン基礎から応用	社会学演習 教育と階層の社会学	比較地域社会学 被害・ガバナンス・環境正義の社会学
3		認知科学 進化した心、進化する文化	地域科学演習 空間情報と地理学	認知心理学 感覚と知覚	社会生態学 野生動物管理入門
4		行動計量学 重回帰分析	社会学研究法 質的調査法	社会変動論 医療と福祉の社会学	
5					

※上の表は実際の開講時間割とは異なります。

▲ 行動科学関連諸分野の主要な研究テーマと研究方法の概要を学ぶ。［行動科学実験実習］

▲ 目や耳などの感覚器官を通じて得られる情報が知覚になるまでの仕組みについて学ぶ。［認知心理学］



▲ 格差社会の実態をデータに基づいて考える。［社会学演習］

▲ 人の自然との関係を通してこれからの社会のあり方を考える。［比較地域社会学］

研究室・教員・卒業論文テーマ

心理学研究室

河原 純一郎 教授 *KAWAHARA Jun-ichiro*
■研究分野　認知行動科学（注意、記憶、魅力、顔、産業応用）

川端 康弘 教授 *KAWABATA Yasuhiro*
■研究分野　認知心理学（色覚、感性、知識、熟達）

安達 真由美 特任教授 *ADACHI Mayumi*
■研究分野　音楽心理学（聴取、演奏、感情、発達）

小川 健二 准教授 *OGAWA Kenji*
■研究分野　認知神経科学（特に運動学習や社会認知）

金子 沙永 准教授 *KANEKO Sae*
■研究分野　知覚心理学（特に視覚、錯視）

田辺 弘子 准教授 *TANABE Hiroko*
■研究分野　認知行動科学（運動制御、身体表現、スポーツ心理）

鶴見 周摩 助教 *TSURUMI Shuma*
■研究分野　認知・発達心理学（乳児の知覚・認知）

森本 琢 助教 *MORIMOTO Taku*
■研究分野　認知心理学（クロスモダルな情報処理過程、記憶、心的イメージ）

【卒業論文テーマ例】
- 内受容感覚のメタ認知能力と不安感情の関連性についての検討
- 機能的核磁気共鳴画像法を用いた情動伝染の個人特性とミラーニューロンシステムの関連性についての検討
- 毎日の音楽聴取と課題への集中が不安低減に与える累積効果と持続性についての検討
- 大学生の日常生活における音楽による感動とその個人差
- 糞による注意捕捉効果
- 開閉眼および視線シフトが顔魅力に及ぼす影響
- The effect of video playback speed on emotional response（動画の再生速度が感情反応に与える影響）
- 「ストレスと錯視には関係がある」という流言には正当性があるのか
- e口コミにおける肯定的情報・否定的情報が消費者の口コミに対する有用性及び意思決定時間に与える影響
- 観察時間による明度錯視の錯視量の変化に働くメカニズム ～明度同時対比・ダンジョン錯視・ベナリーの十字を用いた検討～

行動科学研究室

大沼 進 教授 *OHNUMA Susumu*
■研究分野
環境社会心理学、リスクガバナンス

髙橋 伸幸 教授 *TAKAHASHI Nobuyuki*
■研究分野
社会心理学、実験社会科学

竹澤 正哲 教授 *TAKEZAWA Masanori*
■研究分野
社会心理学、適応的意思決定、文化進化論

結城 雅樹 教授 *YUKI Masaki*
■研究分野
社会心理学、文化心理学、社会生態心理学

高橋 泰城 准教授 *TAKAHASHI Taiki*
■研究分野　行動科学、神経経済学

瀧本 彩加 准教授 *TAKIMOTO Ayaka*
■研究分野　比較認知科学

中島 晃 助教 *NAKAJIMA Akira*
■研究分野　応用統計学

【卒業論文テーマ例】
- 斜行伝達の適応進化:遺伝子と文化の共進化理論に基づく検討
- 一般的信頼と機会コストが自集団から出るタイミングに及ぼす効果の検討
- 公共財問題ゲームにおける協力行動の計算論モデルによる検討
- 規範心理再訪:強化学習モデルによる探索的検討
- スペクトルクラスタリングの応用 –誤差のあるデータへの適用–
- 飼育下のシンリンオオカミの行動に影響を及ぼす要因の探索的検討 –札幌市円山動物園で単独で暮らす高齢個体を対象に–
- 除去土壌問題を題材とした市民参加ワークショップの評価–討議の質の評定と参加者の意見の深まり–
- 河川におけるポイ捨て抑止のための社会実験:パブリックアートによる介入効果
- ネコのゆっくりとしたまばたきがヒトに与える影響–ヒトのまばたきとネコに対する印象に与える影響に着目して–
- 高所得者ほど非倫理的行動をするのか? –違法駐車に関するフィールド調査–
- ステータス動機は日本人の環境配慮型消費に影響を及ぼすか–実験的検討
- 部活動における中高生の内発的動機づけに対する褒めと批判の影響 –部員同士のコミュニケーションに着目して–

社会学研究室

櫻井 義秀 教授 *SAKURAI Yoshihide*
■研究分野　宗教・文化社会学、タイ地域研究、東アジア宗教研究、ウェルビーイング研究

樋口 麻里 教授 *HIGUCHI Mari*
■研究分野　社会的排除論、福祉・医療社会学、ジェンダー論、家族社会学、国際比較

平澤 和司 教授 *HIRASAWA Kazushi*
■研究分野
社会学（特に教育、家族、社会階層）

伍 嘉誠 准教授 *NG Ka Shing*
■研究分野　ナショナリズム研究、社会運動論、宗教・文化社会学、東アジア研究

平松 誠 講師 *HIRAMATSU Makoto*
■研究分野
都市社会学、地域社会学、計量社会学

清水 香基 助教 *SHIMIZU Koki*
■研究分野　宗教社会学、主観的ウェルビーイング研究、価値意識の研究

【卒業論文テーマ例】
- 全共闘運動はいかなるメディア・フレームを用いて報じられたか –KH Coderによるテキストマイニングを利用して–
- 「非当事者」はどのように運動への参加を決定するのか –札幌におけるミャンマーの民主化を求める活動に着目して
- 集合記憶としての卒業アルバム
- 日本人の宗教的信念と幸福感の関連
- 精神障害のある人が就労を継続するために必要なものは何か–同僚との関係性に着目して
- 多様性社会におけるアイデンティティ表現– 一人称自称詞の選択に着目して
- 活動分野別のボランティア参加動機–ブール代数アプローチによる比較分析を通じて–
- YouTubeコメント欄における菜食主義批判の計量テキスト分析
- アフリカ系日本人の第二世代はいかに日本社会に統合するか –エスニック・アイデンティティの形成に注目して–
- 各新聞社は同性婚をどう報じているのか–計量テキスト分析による社説の日英比較

地域科学研究室

笹岡 正俊 教授 *SASAOKA Masatoshi*
■研究分野　環境社会学、ポリティカル・エコロジー論、インドネシア地域研究

橋本 雄一 教授 *HASHIMOTO Yuichi*
■研究分野　都市地理学、地理情報科学（GIS）

宮内 泰介 教授 *MIYAUCHI Taisuke*
■研究分野　環境社会学、地域社会学、開発社会学

上野 真由美 准教授 *UENO Mayumi*
■研究分野
野生動物管理学、個体群生態学

髙橋 昂輝 准教授 *TAKAHASHI Koki*
■研究分野　社会・文化地理学、都市研究、北米地域研究、島嶼研究

林 琢也 准教授 *HAYASHI Takuya*
■研究分野　農村地理学、経済地理学、観光学、地域づくり論

【卒業論文テーマ例】
- 移動本屋からみる書店の存在意義と可能性–「体験」の価値に着目して–
- コールセンター労働に関する社会学的研究–非正規労働者の視点から–
- 地域文化から見る人と綿の関係性 –愛知県西尾市天竹町天竹神社を事例に–
- 札幌市における災害発生時の外国人観光客支援
- 台東区・上野アメ横商店街における業種構成の変化と中国系店舗の増加
- 富山市における土地利用変化とコンパクトシティ政策
- 無住集落における共同のいとなみ –福井県小浜市上根来集落の歴史と現在から–
- 中国天津市五大道歴史文化街区における観光地化に伴う生活環境の変化と居住継続要因の検討–住民の対応と意識に焦点を当てて–
- 観光ガイドブックは「影」をいかに描くのか–「るるぶ広島」「るるぶ長崎」シリーズを事例に–
- 景観項目に着目した洋上風力発電事業導入の課題と展望 ～北海道石狩湾における事例より～

卒業論文

4年間の学びの集大成

4年次のスケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
卒論指導教員の決定		教育実習 教員免許を取得する者のみ対象。時期は実習先により異なる。	博物館実習 学芸員資格を取得する者のみ対象。時期は実習先により異なる。		大学院入試（前期）	**卒論題目届を提出** 指導教員と相談して卒業論文の題目を決定。論文作成もいよいよ追い込みへ。		**卒論提出**	**卒論口述試験** 試験の内容はコース・研究室で異なる。	大学院入試（後期）	**卒業決定者発表・学位記授与式・卒業祝賀会** 学位「学士（文学）」を授与。

卒業論文への取り組み

他の卒業生の卒業論文への取り組みはウェブサイトでお読みください。

case 01

卒論テーマ

確証のパラドクスの批判的分析

哲学・文化学コース
（令和3年度卒業）
室井 沙月 さん
（むろい さつき）

［テーマを決める］

私の卒論では、ある科学的な命題とその対偶（同値になるはずの命題）の確からしさが一致しない場合に生じるパラドクス（確証のパラドクス）について、「すべてのカラスは黒い」という例を用いて、このパラドクスをできるだけうまく解消するまでの道筋を示すことを目指しました。科学的な推論に関する問いを論理学の手法で検討するため、科学哲学と論理学の中間に位置するテーマ設定にも惹かれました。

［情報を集める］

3年生の9月から授業とは別に、指導教員の佐野勝彦先生と定期的に科学哲学の基本的な教科書を英語で読み、同時に先行研究の行間を埋めてさらに深く理解するための方法を学びました。5月初頭に内部進学者向けの大学院特別入試を受けた後は、この研究分野の最も基本となる論文を11月までかけて佐野先生との面談を活用して証明の穴埋めをしつつ全訳して、卒論の執筆に取りかかりました。証明が必要な部分を洗い出す方法や言い換え・要約の仕方について佐野先生から丁寧に指導していただき、修士以降の研究に活かせるような構想の立て方なども大変参考になりました。

［書き上げる］

議論の本筋に肝要な部分だけを取捨選択し、自分の言葉で構成するというのはかなり難しかったです。先行研究の読解が思うように進まず、肝心の卒論を推敲する時間が限られてしまいましたが、自分なりのゴールには近づけたと思います。卒論には論文の推敲だけでなく進行状況や時間管理をも推敲する能力が求められます。書き上げていく過程で、今後大学院で研究を進めていくための基礎体力がつきました。

指導教員からの評価

哲学倫理学研究室
佐野 勝彦 教授

卒業論文執筆には知的好奇心に加えて先行研究をフェアな仕方で噛み砕く知的な基礎体力も不可欠です。地道な作業で英語文献を読み解いた力作です。

case 02

卒論テーマ

An Analysis of Adversative Usage of English Preposition ON
（英語前置詞 on の迷惑・不利益を表す用法に関する分析）

言語・文学コース
（令和元年度卒業）
松村 大寿 さん
（まつむら だいじゅ）

［テーマを決める］

きっかけは、日本語の「雨に降られた」を英語では“It rained on me”と表すという記述を見つけたことです。同じ事態を日本語では「降られた」という受身、英語では前置詞 on という全く異なった形式で表していることに強く興味を引かれ、先行研究があまり進んでないことが判明したので、自分で「前置詞 on の迷惑用法」について明らかにしたいという気持ちに駆られました。

［情報を集める］

6月から9月末までは先行研究の収集・分析を行い、仮説を立てる助走期間。10～11月には用例の収集と英語のネイティブスピーカーを対象としたアンケート調査を行い、11～12月で一気に執筆作業を進めました。先行研究の論文に on がもともと「接触」の意味を持つところからいくつかの意味を経て「迷惑」の意味が生じると指摘するものを見つけましたが、その複雑な経緯かつ思弁的な説明に苦慮していたところ、指導教員の野村先生から「それぞれの意味の発生年代を調べてみたら?」というアドバイスをいただいたことで客観的な証拠付けができました。

［書き上げる］

論文執筆というと自分一人で進めるイメージがありましたが、実際には学生同士の意見交換や先生方への相談が頻繁に行われ、それらが論文の完成度を高めることがよくわかりました。英語学の卒業論文は英語で書くのが慣例となっているため、執筆は想像を超えた大変さでしたが、その分完成した時の喜びはひとしお。見返してみると理由付けやアンケート調査の分析に改善すべき点があり、さらに扱えきれなかった話題もあるので、今後の研究のモチベーションとなりました。

指導教員からの評価

言語科学研究室
野村 益寛 教授

卒論の成功のカギはテーマ選びにあり。そのためには日頃から「なぜだろう?」とアンテナを広く張ること。この点でこの卒論は最初から成功が約束がされていました。

異文化のレンズを通して日本を相対化する
実践的な外国語力を身につけ、世界という舞台へ

北海道大学の交換留学制度
―文学部独自の制度も充実―

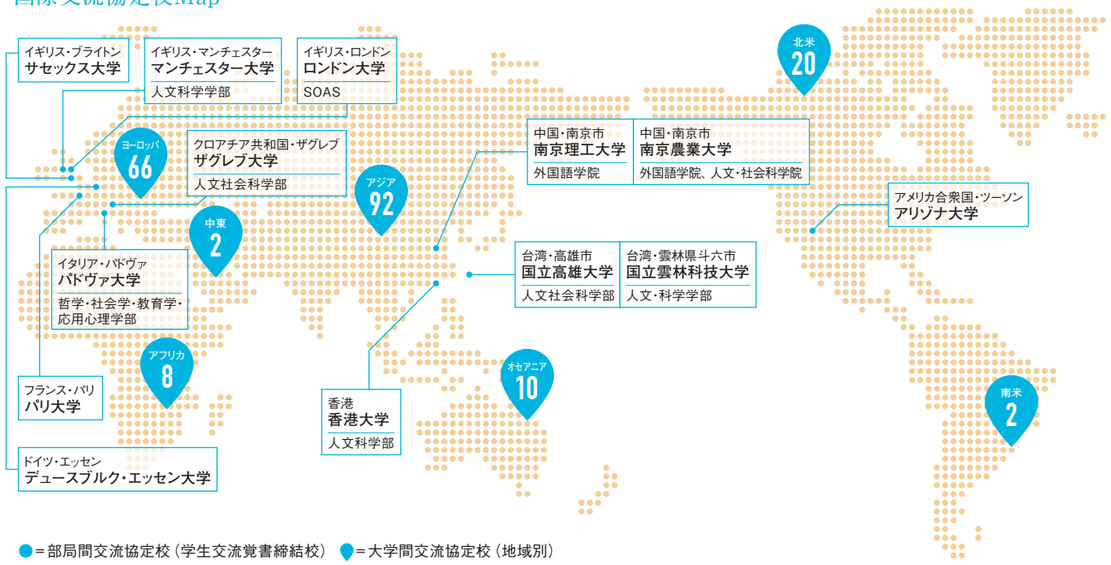
北海道大学では、海外の53ヵ国・地域の204機関と200の大学間交流協定を結んでいます（2024年3月現在）。このうち、190大学と「大学間」の学生交流覚書を、また、それとは別に「部局間」の学生交流覚書も締結しています。学生はこれらの協定大学に1学期間あるいは1年間「交換留学」することができます。大学間の場合は、北海道大学の学生全員が対象ですが、部局間の場合は、協定を結んでいる部局の学生が対象となります。文学部では、現在24大学等と部局間交流協定を締結しており、このうち13大学と学生交流覚書を取り交わしています。これらの13大学に対しては文学部独自の交換留学制度があります。

交換留学のメリットいろいろ
― 授業料不徴収、単位認定、生活相談も ―

北海道大学は海外の協定大学との間に「授業料不徴収」の取り決めを結んでいます。「授業料不徴収」とは、北海道大学に授業料を納めれば留学先の大学に授業料を払わなくてすむという制度で、北大よりも高い学費の大学へ留学したい場合は非常に有利です。交換留学であれば、留学先の大学の専門科目を履修することができ、そこで修得した単位が文学部の審査によって帰国後に認定される場合があります。

また大学間交流協定校への交換留学の場合、出願手続きを学務部国際交流課がサポートし、出発前に交換留学生を対象としたオリエンテーションも実施します。留学中もメール等で授業や生活等に関する相談に応じるとともに危機管理に関する情報も提供しています。文学部の部局間交流協定校への留学は、文学部独自の支援が受けられます。一人一人の状況に応じたきめ細やかなフォローで、事前準備から留学中の相談にも対応しています。

国際交流協定校Map



●＝部局間交流協定校（学生交流覚書締結校）　●＝大学間交流協定校（地域別）

文学部が提案・関係部局となっている大学間交流協定校

アバディーン大学 / アラスカ大学フェアバンクス校 / イルクーツク国立大学 / ウィスコンシン大学マディソン校 / ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学 / オウル大学
オクラホマ大学 / オークランド大学 / ケルン大学 / サハリン国立大学 / ジュネーブ大学 / ソウル市立大学校 / ソフィア大学聖クリメント・オフリドスキ
タルトゥー大学 / デラサル大学 / ノヴォシビルスク国立大学 / ハワイ大学マノア校 / バイロイト大学 / ブカレスト大学 / 北京大学 / 北京師範大学
ベオグラード大学 / ヘルシンキ大学 / 北東連邦大学 / 香港中文大学 / マヒドーン大学 / ミラノ・ビコッカ大学 / ワルシャワ大学

［50音順］

北大文学部から世界へ
世界から北大文学部へ

あなたの隣にも留学生が
国際色豊かな北大キャンパス

北海道大学には世界各国から集まった大勢の外国人留学生が学んでいます。留学生との交流プログラムも豊富に用意されており、さまざまな体験を通して国や民族、ことばや文化、宗教などの壁を越えた友情を育むことができます。

文学部や大学院文学院に在籍する各国の留学生たち（16ヵ国・207名、令和6年5月現在）も、皆さんの大学時代を彩る大切な仲間たち。緑のキャンパスにいながらにして国際交流や異文化コミュニケーションが始まります。

部局間交流協定校

サセックス大学（イギリス）

社会学研究室 留学年次4年
中山 芽衣（なかやま めい）さん

留学中に旅行したイタリアにて。

国際的な視座や多様性を育むイギリス留学

国家間の不平等や貧困問題に関心があり、世界1位と評される開発学と、私の専門の社会学が同時に学べるコースがあるサセックス大学を留学先に選びました。世界中から集まる多様な学生と議論することで、視野が広がりました。授業の予習は大変でしたが、楽しく、得難い経験になりました。

大学間交流協定校

ワシントン大学（アメリカ）

欧米文学研究室 留学年次3年
内藤遥（ないとう はるか）さん

右下の縦縞のシャツが本人

米国大学院につながった留学経験

現地で集中的に文学を学ぶためワシントン大学に留学しました。600ページの読解とディスカッションを要求されるハードな授業もこなしつつ、日本語教育のボランティアにも参加しました。これらの経験を通して米国の言語教育の先進性に触れ、卒業後はカンサス大学大学院に進学し教育行政を学びます。

大学間交流協定校

オーフス大学（デンマーク）

文化人類学研究室 留学年次3年
上坂 海月（うえさか みつき）さん

現地のくらしをフィールドワーク!

照明やキャンドルを使って心地よい空間をつくるのが上手なデンマークのライフスタイルを体験し、フィールドワークしたいと思い留学しました。デンマーク人の友人の実家に招待され、素敵な空間を味わったり、現地の人と交流したりして、大学の授業とともに充実したフィールドワークを堪能しています。

海外からの留学生

上海外国語大学（中華人民共和国）

言語科学研究室 文学院博士後期課程2年
張 琴琴（ちょう きんきん）さん

数量詞の謎を解明するために北大へ

中国で日本語を学んでいたとき、数量詞に疑問を持ちました。調べるうちに、加藤重広先生の研究に出会い、北大への留学を決意しました。最初は文学部研究生として入学、コロナ禍で来日が遅れ海外から遠隔授業を受講しました。現在、北大の豊かな環境を満喫しながら勉強し、博士号取得を目指して研究に取り組んでいます。

さらに詳しい留学体験記は『留学ガイドブック』または文学部ウェブサイトで読むことができます。

文学部で取得できる教員免許や資格「なりたい自分」に向かって計画的に

進路の選択肢を増やす免許や資格 取得に必要な所定単位は要チェック!

文学部では、中高教員免許状の他、美術館・博物館・資料館などの学芸員資格、また、社会調査士、考古調査士の資格も取得できます。資格を持っていると、進路を決める際に選択肢が大きく増え、可能性の幅が広がります。免許・資格の取得には所定の単位の修得が必要です。カリキュラムを計画的に組み立て、単位の取りこぼしがないように気をつけましょう。

教える喜び・難しさを学ぶ

教育職員免許状

中学校・高等学校の教員になるには、教育職員免許状が必要です。この免許状を取得するために開設されているのが教職課程です。教職課程の履修を通して、教育の基礎理論の他、生徒への指導や相談方法など教員に必要な知識や技能を学んでいきます。このため、卒業に必要な単位より多くの単位を修得する必要があります。教育実習も必修です。

●**中学校教諭一種免許状**［国語、社会、外国語（英語）］
令和3年度～5年度の北大文学部生 取得数27件

●**高等学校教諭一種免許状**［国語、地理歴史、公民、外国語（英語）］
令和3年度～5年度の北大文学部生 取得数54件

博物館の企画運営の専門職

学芸員

学芸員とは、「博物館法」に定められた博物館（美術館・科学館・動植物園・水族館などを含む）に勤務する専門職員です。

主な仕事は、専門分野の調査・研究、資料の収集・整理・保管・展示、利用者へのアドバイス、地域住民に対する社会教育・生涯学習の指導・助言等。他に博物館の運営等の業務もあり、博物館全般の業務をこなします。

法令の定める「博物館に関する科目」を修得し、かつ学士の学位を有することで学芸員になるための資格が得られます。文学部では、学芸員資格取得のための説明会を毎年4月に実施しています。

●**学芸員**
令和3年度～5年度の北大文学部生 取得数51件
（大学院生24件、計75件）

情報化社会で注目度上昇中

社会調査士

社会調査士資格には、「社会調査士」と「専門社会調査士」の2種類があります。どちらも社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等をとらえる能力を有する〈調査の専門家〉のことです。

「社会調査士」の資格を活かし、社会の動きを読み解くエキスパートとして活躍する場は多彩です。調査会社をはじめシンクタンクやコンサルタント会社、官公庁、マスコミ、IT企業ほか多くの民間企業で、調査の実施、結果の分析、その後の施策の企画立案等に携わります。

文学部では、「社会調査士」資格取得のために必要な科目（社会調査協会・標準カリキュラムに準拠）を開講しています。「専門社会調査士」は大学院修士課程修了で取得することができます。

●**社会調査士**
令和3年度～5年度の北大文学部生 取得数14件

●**専門社会調査士**
令和3～5年度の北大文学院生 取得数1件

埋蔵文化財調査の専門家

考古調査士

北海道大学では令和２年度に新設。取得できる考古調査士資格には、学部卒業時に取得できる「２級考古調査士」と大学院修士課程もしくは博士後期課程修了時に取得できる「１級考古調査士」の２種類があります。どちらも文学部または文学院が開講している所定の授業科目の単位を修得し、考古調査士資格認定機構から認定されると取得できます。

埋蔵文化財調査と保存・活用に求められるさまざまな専門知識と技術を身につけ、国民共有の財産である文化財の保存と活用に携わります。行政機関や民間組織での活躍が期待されます。

●**2級考古調査士**
令和3年度～5年度の北大文学部生 取得数20件
（他学部生2件、計22件）

●**1級考古調査士**
令和5年度の北大文学院生取得数3件
（他学院生1件、計4件）

研究者マインドを今は教材研究に

勤務先 茨城県立古河第一高等学校
［地歴・公民科教諭］

海野 翔太郎（うみの しょうたろう）さん

文学部 歴史学・人類学コース（令和元年度卒業）
北海道大学大学院教育学院 教育学専攻 修士課程
（令和3年度修了）

高校の授業でイスラームの虜となり、北大文学部で歴史学を専攻しました。東洋史学研究室は先生や学生との距離感が非常に近く、ゼミや卒論ではどんなに小さなことでも丁寧にアドバイスをくださるなど、東洋史学ひいては歴史学を研究するには充分すぎる環境が整っています。ゼミのレジュメ作成や卒論執筆を通して「わかりやすく」「伝わる」ための書き方やプレゼンの方法を学ぶことができました。このことは教員となった現在、授業や校務分掌・学年の会議など多方面に渡って、いかんなく発揮できていると感じます。

近年、「教職はブラック」という言葉を耳にします。やりがいだけでは片付けられないことも否定できません。しかしそれでも、生徒と共に、ときには生徒から学ぶことで得られるものは自分の人間性を高めてくれる価値ある職業だと考えています。授業準備は教材「研究」というくらいですから、北大文学部で培える飽くなき「研究者マインド」を持って現場に来てくれることを心より願っています。

※本項は2023年6月現在のデータで構成しています。

自分の思考を伝える実践の場

撮影：成田写真事務所

勤務先 弘前れんが倉庫美術館 アシスタント・キュレーター
［学芸員］

佐々木 蓉子（ささき ようこ）さん

文学部 哲学・文化学コース（平成28年度卒業）
大学院文学院 人文学専攻 博士後期課程在籍中

芸術学研究室のゼミは、作家や作品について自分の考えを時間をかけて言葉にし、先生や仲間からのフィードバックを受けとめ修正を繰り返す実践の場でした。学芸員の仕事もまた、自分の思考を言葉にして相手に伝える作業の積み重ねなので、大きな糧になっていると感じます。道内外の美術館で勤務する先輩方との交流も多く、とても刺激を受けました。修士課程在学中は留学制度を利用し、ドイツで1年間過ごしました。悪戦苦闘して外国語と向き合った経験は、海外の作家とのコミュニケーションもときに求められる現在の仕事にもつながり、挑戦してよかったと感じています。

学芸員を目指す方は、大学での研究に真摯に取り組みつつ、例えば芸術を学ぶ場合は、色々な展覧会に足を運んで生の作品に触れ、アートの現場でのボランティアなどを経験したりして、大学の外の世界に積極的に関わって自分の興味関心を深めていく姿勢が大切だと思います。人との出会いから受けた刺激を大切にして、充実した大学生活を過ごしてください。

※本項は2023年6月現在のデータで構成しています。

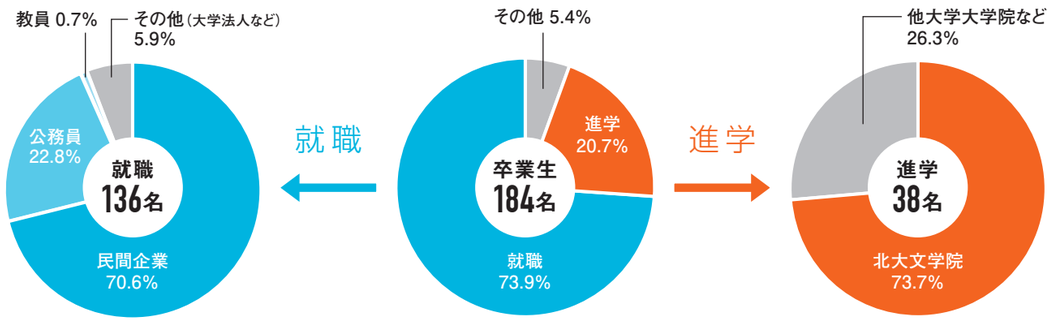
卒業後の進路・就職

文学部で培った「伝える力」を発揮
学びの豊かさを映す多彩な就職先

豊かな学びを吸収した北大文学部生の進路・就職先は、実に多彩です。研究対象を問わず「読む」「聞く」「書く」「説明する」ことに真摯に取り組む姿勢は、文学部生ならではの美点であり、卒業論文を書き上げる過程で「調べる」「分析する」「理解する」「人にわかりやすく伝える」といった、社会で必要とされるスキルもしっかり習得できます。

また、北海道の自然に囲まれ、さまざまな仲間と過ごすキャンパスは、大切な人間形成の場でもあります。コミュニケーションスキルも自ずと磨かれ、社会というステージでのびのびと活躍している先輩たちが大勢います。

進路・就職データ（令和5年度 / 卒業生184名）



約7割が就職、
うち民間企業が約7割、公務員が2割強

大学院進学は約7割が北大文学院

学生の一歩先をやさしくサポート、進路・就職の説明会も随時開催

文学部では毎年、進路や就職選択のサポート活動として「履修コース説明会」「就職ガイダンス」「大学院進学説明会」などを行っています。また、文学部図書室に設置された就職資料コーナーでは豊富な資料が閲覧できます。

▲ 就職ガイダンス

▲ 大学院進学説明会　※令和2年以降はオンライン開催。研究室別個別相談会も実施。

社会で活躍！ 卒業生

粘り強く考え抜く力で社会人の土台を築く

勤務先 デロイト トーマツ
ファイナンシャルアドバイザリー合同会社

椎名 彩（しいな あや）さん
文学部 哲学・文化学コース（平成30年度卒業）

高校時代に関心をもった古代ギリシャ哲学を学ぶために、北大文学部に進みました。文学部では、古代から現代にかけての西洋哲学、倫理学、論理学、宗教学など、興味の赴くままに幅広く学ぶことができました。古代ギリシャ語などの言語の勉強は大変でしたが、憧れの哲学者たちの文章を彼らが使用していた言語でそのまま読めることは何よりの悦びでした。腰を据えて原典をじっくり読めたことや、哲学・倫理学の中でも異なる分野を研究している友人たちと専攻している時代も地域も超えて議論ができたことは、哲学倫理学研究室ならではの経験だったと思います。また、文学部で粘り強く考え抜いた経験は、社会人としての土台になっていると感じています。

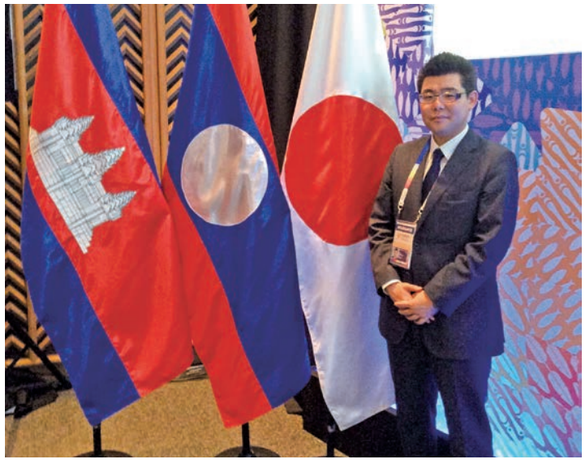
社会人になってから「大学生のときくらい興味のあることを勉強すればよかった」という声を驚くほど多く聞きます。文学部での学びに興味がある方には、文学部だと自分の目指す職に就けないといった事情がなければ、文学部に進学することを強くお勧めします。一度きりの人生です。ぜひ、皆さんの興味関心を大切に、今後の選択をしていってください。

お仕事紹介：M&Aに関するアドバイザリー業務に従事

キャリアの選択肢が多く、ライフイベントにも対応しやすい点に魅力を感じ、在学時より公認会計士を目指し、卒業後、無事合格。有限責任監査法人トーマツでキャリアを積み、現在デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社に出向し、企業の合併・買収に関するアドバイザリー業務に従事しています。

※本項は2024年6月現在のデータで構成しています。

人生や世界に対する視座を養う文学部



勤務先 北海道総合政策部国際課

齊藤 遼（さいとう りょう）さん
文学部 歴史学・人類学コース（平成24年度卒業）

高校時代に体験授業で受けた東洋史学の吉開将人先生のゼミに魅了されて、北大文学部に進みました。入学してすぐに東洋史学の講義を一番前に座って受けたときの嬉しさは今も忘れられません。歴史学の他にも文化人類学や哲学、宗教学、心理学などさまざまな講義を受講しました。そこで養ったものは「人間ってこういうところがあるよな」とか「世界ってこういうふうになっているんだな」という自分なりの感覚です。仕事をしていると、日々課題にぶつかります。私の仕事は“人”との調整が主な仕事ですので、対応に客観的な答えがなく、自分の持つ情報や知識に基づき、都度、判断をする必要があります。その時に自分の考えを整理する軸として、自分なりの人間や世界に対する視座というものがあり、それは紛れもなく“人”に関する学問を修める文学部にいたからこそ養えたものだと感じています。

昨今は将来の就職を考えて文学部進学を迷う人も少なくないと思いますが、大学はまず学びの場であり、文学部はさまざまな“人”に関する知識が絡み合う面白い世界です。そこで得られるものは仕事を越えて、生きていく中で大切なあなたの軸になっていくと思います。

お仕事紹介：ODAを経て中国との経済交流を担当

自分の生まれ育った北海道をもっと元気にしたくて北海道庁を希望しました。入庁後、外務省に出向しベトナム、インドネシアなどへのODAを担当した後、上海総領事館にて勤務。その後は道庁に戻り、経済部国際経済課を経て、総合政策部国際課と国際関係の業務、特に中国との交流を担当しています。

※本項は2024年6月現在のデータで構成しています。

卒業生の就職先（過去3年間の主な就職先）

公務員

会計検査院
経済産業省 北海道経済産業局
厚生労働省
厚生労働省 北海道労働局
国税庁 札幌国税局
国土交通省
国土交通省 大阪航空局
国土交通省 北海道運輸局
国土交通省 北海道開発局
国立国会図書館
財務省 函館税関
財務省 北海道財務局
水産庁 北海道漁業調整事務所
総務省
総務省 北海道管区行政評価局
東京高等裁判所
内閣官房
内閣府 公正取引委員会
農林水産省 九州農政局
防衛省 北海道防衛局
法務省 矯正局
法務省 札幌出入国在留管理局
法務省 東京出入国在留管理局
法務省 北海道地方更生保護委員会
文部科学省

茨城県庁
神奈川県庁
京都府庁
郡山市役所
札幌市役所
島根県庁
仙台市役所
多摩市役所
調布市役所
東京都庁
富山県庁
長野県警察
奈良県庁
練馬区役所
八王子市役所
北海道庁
焼津市役所
和歌山県庁

教育・学習支援業

恵庭北高校
札幌市立上篠路中学校
札幌新陽高等学校
首里中学校
立花学園高校
帝塚山学院泉が丘中学高校
東京大学
日本学生支援機構
北海道大学
明治大学

さなる
秀英予備校
進学会
日能研
ブレーンバンク
練成会グループ

情報通信業

アイケイシステムズ
アイビーシステム
朝日新聞社
インフォテック
ウェブデザイナー
栄光
HBC北海道放送
エクサ
エコモット
エスエスシステム
SCSK
NTTコムウェア
NTT東日本
FM802
エル・ティー・エス
Olivier
北日本放送
キットアライブ
共同通信社
クオリサイトテクノロジーズ
グランバレイ
KDDIエボルバ
コーエーテクモホールディングス
講談社
札幌ソフトハウス
CS-C
JSOL
SHIFT
集英社
鈴与シンワート
スミセイ情報システム
セプテーニ・ホールディングス
ソフトウェア・サイエンス
中日新聞
TIS
DSB情報システム
デジタルデータソリューション
テレビ熊本
東京書籍
ナスカコンピュータ
ニッポン放送
日本アイ・ビー・エム
日本アイ・ビー・エムデジタルサービス
日本映画放送
日本放送協会
パワープランニング
バンダイナムコフィルムワークス
BS-TBS
日立ソリューションズ
ビッグツリーテクノロジー&コンサルティング
フィーリスト
Photosynth（フォトシンス）
ベオスアイティーホールディングス
北海道新聞社
北海道放送
マイベスト
LINE
楽天グループ
リベロシステム

製造業

伊藤園
クリニコ
サントリーホールディングス
シャトレーゼ
よつ葉乳業

ぎょうせい
TOPPAN
光村図書出版

旭化成
AGC
信越化学工業
三井化学
ライオン

河南製鋲
JX金属
JFEスチール
新日本電工
スチールプランテック
住友電気工業

住友重機械工業
ラッキーコーヒーマシン

エレコム
キオクシア
島津製作所
ニチコン
フォトロン

日本電気
富士通
プライムアースEVエナジー
ホシザキ

川崎重工業
トヨタ自動車
ボッシュ
三菱重工業

金融・保険業

あおぞら銀行
SMBC日興証券
七十七銀行
住宅金融支援機構
商工組合中央金庫
大和証券
千葉銀行
日本政策金融公庫
農林中央金庫
北洋銀行
北海道銀行
北海道労働金庫
三井住友信託銀行
三菱UFJ銀行
ゆうちょ銀行

住友生命保険
全国労働者共済生活協同組合連合会
東京海上日動安心110番
東京海上日動火災保険
日本生命保険
北海道鑑定
明治安田生命保険

電気・ガス・熱供給・水道業

大阪ガス
JERA
静岡ガス
東京電力ホールディングス
北陸ガス
北海道ガス
北海道電力
三菱ガス化学
リニューアブル・ジャパン

卸売業・小売業

エノテカ
TOTOエムテック
永浜クロス
パナソニック ハウジングソリューションズ
阪和興業
ホクレン商事
北海道酒類販売

アークス
アポロ
コーセー化粧品販売
サンセリテ札幌
セコマ
ツルハ
DCM
ニトリ
ニトリホールディングス
日本調剤
日本マクドナルド
長谷川産業
はなまる
丸井グループ
三越伊勢丹
ユニクロ
ヨークベニマル
良品計画

運輸・郵便

イオングローバルSCM
小田急電鉄
川崎汽船
京王電鉄
第一中央汽船
苫小牧埠頭
西日本高速道路
日本海事協会
日本郵便
東日本旅客鉄道
北海道旅客鉄道
郵船ロジスティクス

学術研究、専門・技術サービス業

アクセンチュア
アビームコンサルティング
EY Japan
内山鑑定
NECソリューションイノベータ
NDPマーケティング
クレタ
Global Assist
国立民族学博物館
シグマクシス
知野・寺田会計事務所
テガラ
東芝インフラシステムズ
ニトリパブリック
農業・商品産業技術総合研究機構
博報堂
PwCあらた有限責任監査法人
北海道朝日航洋

サービス業

あきんどスシロー
プリスリゾート

カプコン
キッス・エンタテインメント
劇団風の子北海道
札幌交響楽団
JTB
日本中央競馬会
日本旅行
日本旅行北海道
ぴあ
広島東洋カープ
めもりあるグループホールディングス
ユー・エス・ジェイ
リクルートじゃらん北海道

アウトソーシングテクノロジー
エフプレイン
キャリコムグループ
グローアップ
パーソルキャリア
富士フイルムビジネス
イノベーションジャパン
マーキュリー
ライツアパートメント
ワークポート

医療・福祉

札幌一時生活支援協議会
札幌市社会福祉協議会
社会保険診療報酬支払基金
スタートライン
東京都福祉保健財団
NPO法人ひなた
芳洋会
北海道民間社会福祉事業職員共済会
LITALICO

農業・林業

クボタ
TOMONIIゆめ牧舎

複合サービス業

馬路村地域づくり事業協同組合
北海道農業協同組合中央会

建設業

新井組
大林組
オープンハウス・アーキテクト
住友林業ホームテック
清家石材工業
大成建設
北海電気工事

不動産業、物品賃貸業

イオンモール
中央日本土地建物
ファミリーコーポレーション
三井不動産商業マネジメント
明和地所

修士課程修了者の就職先（過去3年間）

官公庁

愛媛県久万高原町地域おこし協力隊 / 外務省 / 国税庁 / 仙台市 / 総務省 / 北海道教育委員会 / 北海道森林管理局 / 北海道庁 / 松本市役所 / 夕張市役所

教育・学習支援業

芦原中学校 / 神奈川県教育委員会（高等学校教諭） / 吉祥女子中学高等学校 / 進学会 / 星野学園 / 北海道高等学校 / 北海道大学大学文書館 / 中学校教諭 / 日本語教師（中国）

建設業

清水建設 / 大東建託

運輸業・郵便業

ニチレイロジグループ / 北海道エアポート / 北海道丸和ロジティクス

学術研究、専門・技術サービス業

愛媛県美術館 / アクセンチュア / あずさ監査法人 / 大川美術館 / 小樽市総合博物館 / 帯広百年記念会館 / 科学技術振興機構 / 釧路市立美術館 / 札幌市アイヌ文化交流センター / 札幌市芸術文化財団札幌芸術の森 / 産業技術総合研究所 / 自営業（デザイナー） / 水土舎 / 日本学術振興会 / 日本総合研究所 / 野村総合研究所 / PwCコンサルティング / PIGNUS / ビジョン・コンサルティング / 日高町立門別図書館郷土資料館 / 平取町立二風谷アイヌ文化博物館 / 北海道大学大学院医学研究院 / マクロミル

金融・保険

SBI証券 / PayPay銀行 / 北海道銀行

情報通信業

HBA / ESRIジャパン / NTTデータ / NTTデータMSE / M-SOLUTIONS / クリプトン・フューチャー・メディア / KDDI / 尚文出版 / Speee / セーフィー / ソフトウエア・サイエンス / TIS / テクノプロ・IT / 東京システム技研 / 日本アイ・ビー・エムデジタルサービス / バクテラ・テクノロジー・ジャパン / 東日本電信電話 / ファームノート / フジテレビジョン / ブックスボックス / 北海道新聞社 / モンスターラボ

卸売業・小売業

コメリ / トゥモローランド

不動産

JWB

製造業

岩塚製菓 / 大阪クリップ / クボタ / コルグ / セイコーエプソン / TDK / TOPPAN / 日産自動車 / ルピシア / レゾナック

サービス業

アビームコンサルティング / エイチ・アイ・エス / HTM / 個人事業主（教育業務、飲食宿泊業務） / JTB / 鈴木商会 / 丹青社 / ペイロール / ホクレン農業協同組合連合会 / マスターピース・グループ / 楽天グループ / りんゆう観光

農業・林業

雪印種苗

大学院進学

「さらに深く」専門研究に取り組む大学院
2専攻11講座20研究室で修士・博士の学位を取得

学部での学びをさらに掘り下げる 北海道大学大学院文学院

北海道大学は研究に重点を置く大学院大学でもあります。文学部の４年間で十分に解明できなかった研究テーマをさらに深く掘り下げたいという人は、ぜひその先の大学院へ。

北海道大学大学院文学院は、国内きっての人文・社会科学系研究拠点として多くの優れた研究者が輩出しています。修士課程を終えた大学院生の約４割は民間企業に就職あるいは公務員・教員になり、なかには民間企業の研究部門に職を得た人もいます。さらに研究を深めたいときは博士後期課程に進学という選択肢も。大学院生の旅費支援や校閲費支援など文学院独自の支援制度のほか、博士後期課程学生にはExcellenceとExtensionの融合による未来社会の開拓者養成プログラム（EXEX博士人材フェローシップ）、次世代AI博士人材フェローシップという支援制度もあり、充実したサポート環境のもと、専門研究に没頭できます。

専門研究の基礎を習得、修士論文を執筆
［修士課程］

標準修業年限は２年間。大学院の授業を受講しながら、指導教員による個別指導を受け、修士論文を執筆します。研究会や学会での発表も重要な訓練の場です。

入試 北大文学部卒業予定者のみを対象とする特別入試のほか、一般と留学生を対象とする前期入試、一般・留学生・社会人を対象とする後期入試の年３回。文学部卒業予定者はいずれも受験できます（特別入試は受験資格に条件があります）。

専門研究を修めた証、博士学位の取得を目指して
［博士後期課程］

標準修業年限は３年間。自立した研究者・専門家を目指し、博士論文の完成を目指します。国内外の学会発表や論文投稿など、研究活動中心の生活を送ります。

入試 ９月の前期入試、２月の後期入試の年2回行われます。いずれも一般入試と社会人特別入試が実施されます。

専攻	講座	研究室	修士課程定員	博士後期課程定員
人文学	哲学宗教学	哲学倫理学、宗教学インド哲学	71名	28名
	歴史学	日本史学、東洋史学、西洋史学、考古学		
	文化多様性論	文化人類学、芸術学、博物館学		
	表現文化論	欧米文学、日本古典文化論、中国文化論、映像・現代文化論		
	言語科学	言語科学		
	スラブ・ユーラシア学	スラブ・ユーラシア学		
	アイヌ・先住民学	アイヌ・先住民学		
人間科学	心理学	心理学	19名	7名
	行動科学	行動科学		
	社会学	社会学		
	地域科学	地域科学		

専門研究を後押しする豊かな環境のもと、栄えある受賞者が続出

北大大学院文学院の大学院生は、国内屈指の恵まれた環境の中、国内外で高く評価される研究成果を残しています。

〈2023年度 受賞者情報〉
- 日本認知心理学会 優秀発表賞 晴木祐助さん（博士後期課程）
- 日本認知心理学会 優秀発表賞 市村風花さん（修士課程）
- 応用哲学会 発表賞 清水颯さん（博士後期課程）
- 日本リスク学会 大会優秀発表賞 相馬ゆめさん（修士課程）
- 合意と共創研究会 学生優秀発表賞 相馬ゆめさん（修士課程）
- 日本植生史学会大会 優秀発表賞 平岡和さん（博士後期課程）
- 環境教育研究・実践奨励賞 若手研究奨励部門奨励賞 尾辻朋音さん（修士課程）
- 北海道大学大塚賞 許開軒さん（博士後期課程）

このほかの年度の受賞情報はこちらよりご覧いただけます。 https://www.let.hokudai.ac.jp/research/award-record

研究者への道

勤務先 別府大学 文学部 史学・文化財学科 講師

木村 聡（きむら さとし）さん

大学院進学を考えたのは企業で働く自分を想像できないというひどく後ろ向きの理由からです。指導教員にはそれを見事に見抜かれ、「今のままでは無理だ。君は他人と喋ろうという意思がない」と言われました。しかしこの言葉があったからこそ、自分を変えるために研究者の道に進む覚悟ができました。

自己改造の日々の開始です。何を伝えようとしているのか、なぜ伝わらなかったかを毎日見直す所から始まりました。修士課程で「日本海軍の連合艦隊を、組織として評価する」という研究を始めたとき、この研究を完成させられるのは自分しかいないと思いました。個別のテーマと史料に目星をつけ、論文投稿から書籍化、更には就職するまでの長期計画を含めて、博士論文の骨格を定めます。後は計画に従って毎日原稿を作り続けるだけ。もとより地頭や集中力で他人より劣っている自覚があるので、毎日成果を重ねることを意識しました。密度の濃い研究時間を毎日必ず捻出し、3か月に1本、論文を投稿し続けました。着実に前進し続ける実感と、停滞した果てに何者にもなれなかった将来の自分への恐怖とが原動力でした。

大学院時代からのこれらの経験が、今の自分を構成しています。「今までなかった視点で考え形にし続ける」。それが今現在の研究の動機であり、私が得た研究者としての生き方です。

PROFILE
平成28年3月北大文学部を卒業後、北大大学院文学研究科修士課程歴史地域文化学専攻を経て令和3年に博士（文学）を取得。その後、防衛大学校総合安全保障研究科特別研究員、外務省外交史料館非常勤職員として勤務。複数の大学の非常勤講師を経て、令和4年より現職。

特色ある大学院教育プログラム

教養深化プログラム

●プログラム設置の背景と目的

大学院教育においては、研究者育成だけではなく、社会の多くの分野で活躍する人材の育成が求められています。教養深化プログラムは、教員や公務員、民間企業等への就職を希望する学生を対象とするプログラムです。

学部を卒業してすぐに就職するのではなく、修士課程に進学し、専門分野の研究をさらに深めるとともに、人文社会科学諸分野の総合的な学修と、文理融合・学際的な学修に加え社会で役立つジェネリックスキル※の習得を実践することにより、高度な専門知識を有し即戦力となる人材を育成します。博士後期課程の学生にとっても、幅広いキャリアが開けるでしょう。

※ジェネリックスキル：社会人として活躍できる能力のこと。具体的には「知識活用力」、「課題解決力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク・リーダーシップ」等の社会で役立つ汎用的な力を指す言葉として使われています。

教養深化科目群（プログラム生限定科目）

教養深化特別演習（基礎・総合）
- 多角的に分析し複合的に考察・表現する能力を身につけます。
- 専門研究に関連づけた実践を通じて、総合力の一層の充実を図ります。

サイエンスリテラシー特別演習（基礎・総合）
- 数理的思考とデータ処理・活用法を学びます。
- 科学研究の最先端に触れ、科学的リテラシーを身につけます。

教養深化特別講義
- 多様な視点から物事を俯瞰的に捉える力を養う。

＋

ジェネリックスキル科目群（大学院共通授業科目）

ジェネリックスキル特殊講義 / ジェネリックスキル特別演習
- 文系学生向けのキャリアマネジメントやキャリア形成、交渉学やプレゼンテーション技法等を学びます。

修了要件を満たすとディプロマを取得できます。
国内外の企業、公的機関等で活躍できる人材に！

人間知・脳・AI教育プログラム（CHAIN※教育プログラム）

●プログラム設置の背景と目的

人文社会科学・脳科学・AI研究が交差する地点で「人間」について多角的に学ぶ文理融合型の教育プログラムです。人文社会科学、神経科学、人工知能などの領域を専攻する大学院学生が、所属大学院を超えて学際的共同研究に参画し、関連する知識・技能を学びながら、それぞれの専門的知見・技能をも深めていきます。必要な単位を修得した履修生には、修了証書が授与されます。

※CHAIN：Center for Human Nature, Artificial Intelligence, and Neuroscience 人間知・脳・AI研究教育センター

修士課程1年から5年間で履修する場合（履修例）

人文社会系
- 修士課程2年間で人間知序論I,II/入門ベイジアン・モデリング/ディープラーニング演習/意識の科学入門/SS※/WS※を修了。
- 博士後期課程3年間で国内研究室インターン/研究留学/SS/WSを修了。

自然科学系
- 修士課程2年間で人間知序論I,II/ディープラーニング演習/意識の科学入門/哲学特殊講義/SS/WSを修了。
- 博士後期課程3年間で研究留学/企業インターン/SS/WSを修了。

博士後期課程1年から3年間で履修する場合（履修例）

人文社会系
- 修士課程2年間で各自専門の修士課程を修了。
- 博士後期課程3年間で人間知序論I,II/国内研究室インターン/意識の科学入門ディープラーニング演習/研究留学入門ベイジアン・モデリング/SS/WSを修了。

自然科学系
- 修士課程2年間で各自専門の修士課程を修了。
- 博士後期課程3年間で人間知序論I,II/国内研究室インターン/意識の科学入門/ディープラーニング演習/研究留学/哲学特殊講義/SS/WSを修了。

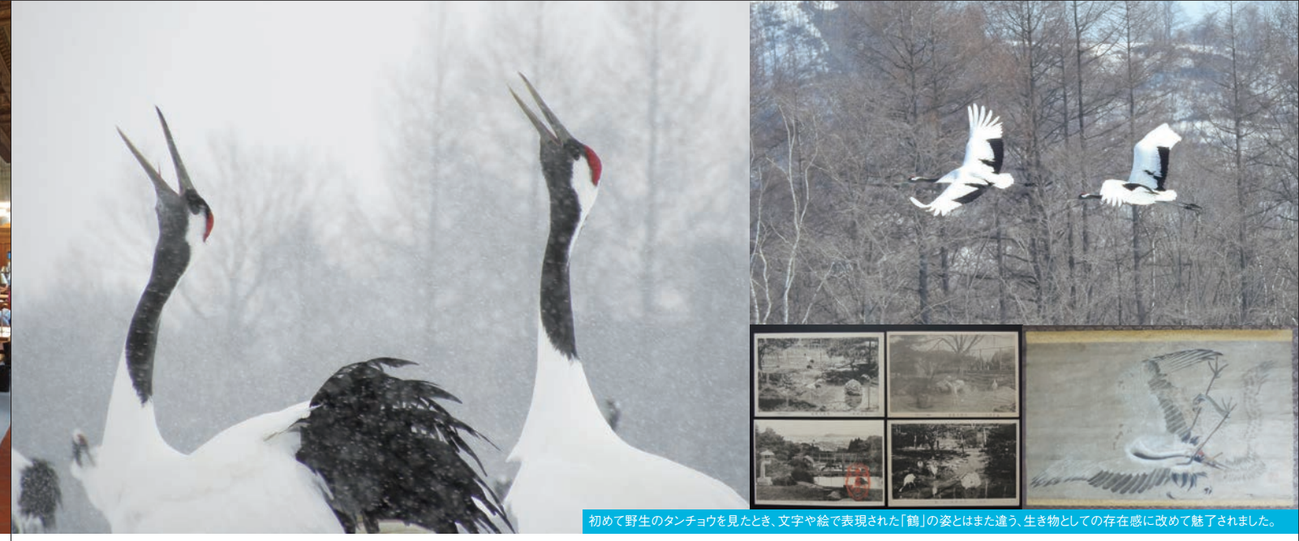
※SS:サマースクール ※WS:ウィンタースクール

各大学院での博士号取得と同時に「人間知」の修了証書を取得
本プログラム修了後は、研究者として学際的研究に従事したり、「人間」にも科学技術にも通じた高度人材として企業に就職したりといった道があります。

研究者に学ぶ
～専門研究の魅力を知る～

北大文学部の教員は学生をいざなう教育者であると同時に、各自が関心を持つ研究テーマに取り組む研究者でもあります。
学部移行とともに専門研究のスタートラインに立つ皆さんに向けて、4人の教員が専門研究の魅力を紹介いたします。

アメリカの小説家エドガー・アラン・ポーの草稿調査を行ったニューヨーク公共図書館とその外観。



初めて野生のタンチョウを見たとき、文字や絵で表現された「鶴」の姿とはまた違う、生き物としての存在感に改めて魅了されました。

欧米文学研究室

竹内 康浩 教授

TAKEUCHI Yasuhiro

竹内先生の研究テーマは何ですか?

19世紀以降から現代までのアメリカ文学を研究しています。最近は、作品中の未解決殺人事件や奇妙な自殺に注目して、マーク・トウェインの『ハックルベリー・フィンの冒険』、J. D. サリンジャーの『ナイン・ストーリーズ』などを読み解き、日本語と英語で研究成果を発表するよう努めています。

マーク・トウェインたち米文学作家が執着した正解のない問いかけから目を背けずに生きていく。

文学とは何なのでしょうか。子供の頃から本を読むのが好きならば、あらためてその意味を問うまでもなく、文学は大切なものでしょう。そうでない人たちが文学と聞いて真っ先に思い浮かべるのは、国語の授業かもしれません。恥ずかしながら私自身も、国語の教科書のおかげで宮沢賢治の「永訣の朝」や夏目漱石の『こころ』に初めて触れることが出来ました。どちらも気持ちを揺さぶられながら読みましたが、国語は教科なのでそれだけでは済まされません。テストがあります。そして、多くの人と同じように私も不満に思っていました――国語には決まった答えがないじゃないか!

それは国語が苦手な人の負け惜しみのようにも聞こえます。けれど、今思えば案外その不満は文学の本質を突いているような気もします。少なくとも文学の研究とは、そもそも答えが出ない問題について考え続けることのようにも思うのです。

宮沢賢治も夏目漱石も、解決が不可能な問題に取り憑かれていたのではないでしょうか。「永訣の朝」は、賢治の妹が亡くなった直後に書かれた詩ですが、そもそも人の死に解決策はありません。人は必ず死にます。これから先どんなに理想的な社会が建設されようとも、そこでどれほど人が幸福に生きようとも、死の問題は残り続け、人は苦悩するでしょう。『こころ』では親友に対する主人公の罪の意識が描かれますが、罪もまた（法的には償えても）本質的には解決できないのではないでしょうか。罪によって失われたものと償いによって返済されたものは、実は別のものなのですから。よく考えてみて下さい。

著書 *Mark X* が批評部門の候補となったエドガー賞の晩餐会で

なんだか授業のようになってしまいましたが、このような問題への関心が私の研究の根底にあります。私が専門にしているアメリカ文学の作家も――『トム・ソーヤの冒険』のマーク・トウェインも、『グレート・ギャツビー』のスコット・フィッツジェラルドも、『ライ麦畑でつかまえて』のJ. D. サリンジャーも――それぞれにとって根源的な問題に執着し続けています。それはおそらく、答えがないからといってそこから目を背けていては、誠実に生きることは不可能だからではないでしょうか。

略歴

1990年　東京大学文学部卒業
1993年　東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了
　　東京大学文学部助手
1995年　一橋大学教養部専任講師
2000年　同助教授
2003年　奈良女子大学大学院人間文化研究科助教授
2008年　北海道大学大学院文学研究科准教授
2014年　同教授
2019年　改組により北海道大学大学院文学研究院教授（現在に至る）

博物館学研究室

久井 貴世 准教授

HISAI Atsuyo

久井先生の研究テーマは何ですか?

鳥類学を軸に関連する諸分野をつなぎ、様々な資料から鳥類をめぐる歴史を探る研究を「歴史鳥類学」と位置づけて、研究に取り組んでいます。江戸時代のツルが専門ですが、近代日本の動物園における動物管理の歴史や、アイヌ民族と動物との関わりなどにも関心を向けています。

かつてどのように生息し、人とどう関わってきたか文理融合の視点で明らかにする野生動物の「歴史」。

皆さんは、野生動物の「歴史」について考えたことはありますか? 札幌では近年、ヒグマやエゾシカなどの野生動物の話題に触れる機会が増えていますが、たとえば江戸時代の北海道では、彼らはどこで、どのように生きてきたのでしょうか。動物自身はその記録を残すことはできませんが、過去の動物の姿を知るための手がかりは、様々な歴史資料のなかに残されています。

私は鳥類のツルを専門に研究を行っています。ツルといえば、北海道では道東を中心に生息するタンチョウが有名ですが、実はタンチョウは、明治時代頃までは札幌にも生息していました。「昔はこんな場所にもタンチョウがいたのか!」そんな驚きがこの研究を始めるきっかけでした。

野生動物に関する歴史を解明するためには、古文書や絵画資料など、あらゆる歴史資料から動物に関する記録を探し求める必要があります。同時に重要になるのが、野生動物そのものについての知識や観察経験です。生き物としての野生動物の生態や行動を知らなければ、資料上の動物の記録を正しく読み解くことができないからです。過去の記録と現在の知識を素材として、分布や生態、行動など「野生動物自身の過去の実態」と、狩猟や保護、人との軋轢、食文化など「動物と人との関わり」の二つの側面から、野生動物に関する歴史を紐解いていきます。

ツルを例にとると、江戸時代の日本列島には全国各地にツルが生息していたことや、オオタカやハヤブサなどの猛禽類を使ったツルの狩猟（鷹狩）が行われていたこと、ツルを塩漬けにした「塩鶴」が珍重され、ツル料理は最上級のおもてなしだったことなど、現代では考えられないような興味深い事実が次々と明らかになります。このように明らかにした研究成果は、現代社会におけるツルと人との関わりの問題を考えるうえでも、有効に活用されています。

野生動物の研究は理系分野のものと思われがちですが、決してそんなことはありません。「文系だけど動物に関わる研究がしたい」、「文系・理系の枠を超えた研究がしたい」という皆さん。皆さんの豊かな発想と熱意で、野生動物に関する歴史を解き明かしてみませんか。

自然と集まってくるツルグッズ。着用のジャケットもツルの刺繍入り!

略歴

2009年　酪農学園大学環境システム学部生命環境学科卒業
2011年　北海道大学大学院文学研究科修士課程修了
2016年　北海道大学大学院文学研究科博士後期課程修了 博士（文学）
2016年　公益財団法人日本生態系協会専門研究員
2018年　特定非営利活動法人EnVision環境保全事務所研究員
2019年　日本学術振興会特別研究員PD（北海学園大学）
2020年　北海道大学大学院文学研究院准教授（現在に至る）

サハリンや北海道の近世文書が所蔵されるロシア・サンクトペテルブルクの研究所にて。北海道の歴史を考えるには、国際的な共同研究も欠かせません。

日本史学研究室

谷本 晃久 教授

TANIMOTO Akihisa

谷本先生の研究テーマは何ですか?

近世日本（江戸時代）の社会史に取り組んでいます。とりわけ「蝦夷地」と呼ばれた北海道・千島列島・サハリンをフィールドとしていますから、主体的なアイヌ史の構築にも関心を向けています。素材は主に和文の古文書ですが、その所在は世界各地に及んでいるため、近年は海外との共同研究を進めています。

学問の「消費者」から「生産者」へ。自らの足元の歴史を掘り下げることから、みえてくる地平がある。

「日本史」という枠組みは、高校の科目にもありますから、皆さんにとって馴染みが深い分野でしょう。高校で「日本史」を履修しなかった方でも、小学校・中学校の「歴史」の授業で、日本史に関する内容は必ず学習したはずですよね。

いま、「学習」という言葉を使いましたが、大学で学ぶ日本史は、決められた教科書をきっちり覚える学習とは、ちょっと違います。求められるのは、課題を自ら設定し、信頼のできるソース（史料）を専門的な手法で分析を行ない、客観的な論拠を提示し叙述する姿勢です。いわば、成果品を享受する「消費者」から、消費に耐える商品を供給する「生産者」への転換です。

私は現在、「近世蝦夷地在地社会の研究」を看板に、仕事を進めています。江戸時代の北海道・サハリン・千島列島に結ばれた社会の構造を、古文書を素材としながら日々分析を進めています。…とこう書くと、ローカルな郷土史研究だなあ、と思う方もあるかもしれません。ただ、世界中どこをみわたしても、社会史研究は、ローカルな事例を深く具体的に分析することから始まるものです。

江戸時代の北海道を例にとると、そこには、アイヌ語を母語としアイヌ文化を自らの文化とした集団と、日本語を母語とし和風文化を自らの文化とした集団とが織りなした、独特の社会秩序が息づいていたことに気づきます。異文化に属する集団の存在を前提とした、相互に交流と軋轢とを抱えながらの社会が、つい150 年ほど前の北海道にはあったわけです。

異文化理解や民族紛争といえば、どこか遠い世界へ出かけて行かなければ直面できない課題と思われがちですが、このように、自らの足元を見つめ直すことで、考えをめぐらせていくこともできるわけです。もちろんそれは、北海道や日本の社会の抱える、アイヌの人びとをはじめとした方々との民族共生や和解のありかたの模索といった現代的課題へ、歴史学的にアプローチすることにも通じていきます。

このように、北海道の歴史には、大きな課題解決のヒントが豊かに含まれています。あなたも、地道に古文書を解読しつつ、「生産者」としてその鉱脈を探してみませんか?

嵐山展望台にて。背景は旭川市街。道内各地での史料調査は、研究の基本です。

略歴

1993年　学習院大学文学部卒業
1998年　同大学大学院人文科学研究科博士後期課程中退
　　同大学文学部助手
2000年　北海道教育大学岩見沢校助教授
2007年　同大学札幌校准教授
2008年　北海道大学大学院文学研究科准教授
2018年　同教授
2019年　改組により北海道大学大学院文学研究院教授（現在に至る）
　　※現在、アイヌ・先住民研究センターならびにアイヌ シサム ウレシパ ウコピリカレ ウシ（アイヌ共生推進本部）の教員を兼務

見ているものに対応する脳活動を測定したり、画像の色や輝度を測定したり、測定は研究の要です。

心理学研究室

金子 沙永 准教授

KANEKO Sae

金子先生の研究テーマは何ですか?

人間がどのようにして世界を見ているのか、視覚の中でも最も基本的な要素である明るさ・色・形・運動などの脳内での情報処理のあり方に関心を持って研究をしています。研究のツールとして錯覚を利用することも多いです。

知覚の不思議を観察・実験で掘り下げる。文系と理系の間に位置する知覚心理学の面白さ。

私の専門は知覚心理学で、特にヒトの視覚について研究をしています。心理学とは高校までの勉強ではまず接することのない学問で、また一般的に持たれているイメージとはかけ離れた学問であるようにも感じています。知覚心理学はその中でも特に「心理学らしくない」と思われる分野かもしれません。

知覚心理学とは視覚や聴覚などの感覚（＝光が目に入り神経が応答する）とそれによる知覚（＝「赤い」という感じ）がどのような仕組みで生じるのかを考える学問です。光の量や波長成分は測定することができますが、光を見ている人がその光をどれだけ「赤い」と感じているかは外から測定できない「こころ」の領域に属します。私の研究室では、明るさ・色・形・運動などに関する錯覚に特に関心を持って、同じ紙でも白っぽく見えたり黒っぽく見えたりする理由や、見ている時間の長さによって線の傾きが変わって見える理由などについて、様々な視覚刺激（画像や動画）を作成し実験を繰り返しています。

知覚心理学は立派な心理学であり文系学問ではあるのですが、一方で実験的アプローチを基本とします。人間の感覚の仕組みを神経細胞・脳をハードウェアとした情報処理システムとして扱う都合上、しばしば「畳み込み積分」や「ナイキスト周波数」といった工学的概念も扱います。また、当然ながら脳や神経細胞に関する知識も必要になります。つまり、この分野はいわゆる「文系」と「理系」の間にある学際的なフィールドであるとも言えます。

とはいえ知覚心理学は決して敷居の高い学問ではありません。むしろ日常的な生活と密接に関わった最も身近な学問であると私は考えています。なぜならば、私たちの研究の根本にあるのは現象観察、つまり自分で見て、試して、確かめてみることだからです。自分自身を被験者としていつでも実験することができる、この楽しさ・自由さは他の研究分野にはない強みだと思います。ふと気づいた不思議な見え方や新しく見つかった面白い錯覚を自分で実験に落とし込んで確かめることができる、この面白さを多くの人に知ってもらいたいです。

実験用の簡易防音室にて今では貴重なCRTディスプレイと。

略歴

2007年　東京大学教養学部卒業
2013年　東京大学大学院総合文化研究科 博士課程修了博士（学術）
2013年　日本学術振興会海外特別研究員（カリフォルニア大学サンディエゴ校）
2015年　日本学術振興会特別研究員SPD（東北大学電気通信研究所）
2018年　東北大学学際科学フロンティア研究所 助教
2021年　北海道大学大学院文学研究院 准教授（現在に至る）

入試関連情報

文学部に進学するための入試は以下のとおりです。

			募集人員	令和7年度試験日	試験科目
一般選抜	総合入試文系	前期日程	100名※	令和7年2月25日	国、地歴・数、外
	学部別入試		118名		
		後期日程	37名	令和7年3月12日	小論文
帰国生徒選抜			若干名	令和6年11月17日	(二次)課題論文、面接
私費外国人留学生入試			若干名	令和6年11月17日	(二次)小論文、面接ほか

※一般選抜(前期日程)では、総合入試文系と文学部のいずれを受けても試験科目は同じです。ただし、定員・倍率・合格最低点などは異なります。総合入試文系で入学した学生は、2年次進級時に法・経済・教育・文学部のいずれか(理系学部も可)に移行しますが、学部ごとに移行人数が定められており、文学部へは30名が移行します(所属学部は本人の志望と入学後の成績に基づいて1年次終了時に決定します)。文学部一般選抜後期日程では、「小論文」のみを課します。

文学部では総合型選抜、学校推薦型選抜、編入学試験は行っていません。

一般選抜(後期日程)に総合入試はありません。総合入試文系、文学部前期日程、文学部後期日程のいずれの試験に合格して入学しても、文学部に進級する場合、履修する授業や必要な単位などの条件は特に変わりありません。ただし、1年次のクラスは総合入試文系での入学者と学部別入試の入学者で異なります。

詳細および最新情報は「募集要項」のほか、以下のサイトでご確認ください。

北海道大学トップページ→「入学案内」 https://www.hokudai.ac.jp/admission/

インターネットで北海道大学や文学部の情報を!

ウェブサイト

文学部に関する総合情報はここに。知りたいことの詳細情報は公式サイトをご覧ください。

https://www.let.hokudai.ac.jp/

X(旧Twitter)

教育研究情報、学内行事など学生向け情報を中心に更新。緊急時の情報共有メディアとしても利用します。

https://twitter.com/HU_Bungaku

Instagram

文学部の魅力を画像で発信。教育研究情報、イベント情報のほか、北大の豊かな自然環境も満載です。

https://www.instagram.com/hu_bungaku/

Facebook

教員や学生の研究成果や研究活動を中心に情報を発信しています。

https://www.facebook.com/Hokudai.Humanities.HumanSciences/

学生サポート情報

入学料・授業料減免

入学料、授業料の納入が困難な学生に対して、入学料の全額または半額、授業料の全額、半額もしくは4分の1を減免または徴収を猶予する制度があります。詳細は以下のサイトでご確認ください。

北海道大学トップページ
→[学生生活]→[各種手続き・証明書]→[入学料・授業料]

参考:
令和6年度入学料 282,000円
令和6年度授業料 年額535,800円
※金額は改定されることがあります。

奨学金

北海道大学で取り扱っている奨学金は、日本学生支援機構、民間・地方自治体等奨学団体の奨学金があります。奨学金は種類によって返還義務のある「貸与」及び返還義務のない「給付」とに分けられます。詳細は以下のサイトでご確認ください。

北海道大学トップページ
→[学生生活]→[各種手続き・証明書]→[奨学金]

国際交流支援

文学院・文学部では留学生受入、在学留学生の支援、学生の海外派遣など国際交流に関わる業務を行っています。また、文学部の学生が、協定校に交換留学する際の相談受付や留学先の情報提供、申請手続きの支援、協定校との仲介、留学中の情報交換なども行っています。留学に関心のある人はお気軽に文学事務部・教務担当窓口にお越しください。

▲文学院・文学部生のための「留学ガイドブック2024」

国際担当教員

ラフェイ ミシェル 教授 *LA FAY Michelle*
■研究分野
日本におけるプロテスタントキリスト教、内村鑑三

小川 佐和子 准教授 *OGAWA Sawako*
■研究分野
映画史、音楽劇研究

学生相談室

学生生活の中では様々な不安や悩みを抱えることがあります。学生相談室では、その様な時に専門のカウンセラーが、みなさんの話を聞き、適切なアドバイスを行います。北海道大学全体の相談室の他に、文学部の建物内にも学生向けの相談室を設けています。

北海道大学 学生相談室
北海道大学トップページ
→[学生生活]→[キャンパスライフサポート]
→[学生相談総合センター学生相談室]

文学部 学生相談室
文学部トップページ
→[総合]→[学生生活]→[学生相談室]

▲文学部学生相談室

保健センター

北海道大学には、学生の保健衛生及び保健指導を行う保健センターがあります。専門医・カウンセラーによる健康相談と応急的な診療の他、定期健康診断や健康診断書・健康診断証明書の発行などさまざまな支援を無料で行っています。

北海道大学 保健センター
https://www.hokudai.ac.jp/hoken/

キャリアセンター

就職活動をはじめ、学生ひとりひとりのキャリアデザインを支援し、社会人としての自立のサポートをします。就職ガイダンスや就職相談の他、インターンシップ支援、公務員受験支援、教員採用試験支援なども行っています。

北海道大学キャリアセンター
https://cc.academic.hokudai.ac.jp/

キャンパスマップ

Access

新千歳空港

- JR千歳線
  快速エアポート 37分
- 高速バス
  札幌都心行 70〜80分

JR札幌駅 → 地下鉄南北線 北12条駅

徒歩12分　徒歩5分

北海道大学 文学部

文学部周辺地図

国立大学法人
北海道大学 文学部

〒060-0810　札幌市北区北10条西7丁目

連絡先　文学事務部教務担当
電　話　011-706-3005 / 011-706-3004（直通）
ＵＲＬ　https://www.let.hokudai.ac.jp/

School of Humanities and Human Sciences, Hokkaido University
Kita 10, Nishi 7, Kita-ku, Sapporo, 060-0810 Japan

◎ 制作・発行　北海道大学 大学院文学研究院
◎ 編集担当　橋本雄・村松正隆・川崎公平・宮内泰介（広報誌専門部会）
飯塚理恵・森岡和子（研究推進室）
◎ 企画・編集　株式会社スペースタイム
◎ デ ザ イ ン　株式会社デクスチャー / 小杉充司

■ 本誌に掲載されている情報は2024年7月現在のものです。■ 本誌の無断複写（コピー）・転載は著作権法上での例外を除き、禁じられています。